秋田大学概要

平成26年度

GENERAL INFORMATION BULLETIN 2014

AKITA UNIVERSITY 2014

秋田大学 概要 平成26年度

目次 CONTENTS

01 学長あいさつ
02 基本理念・基本的目標・教育目標
04 第2期中期目標・中期計画

教育・研究・社会貢献・国際交流

07 卓越した教育と研究
08 社会貢献
10 国際交流

学部・大学院

13 国際資源学部
14 教育文化学部
15 医学部
16 理工学部
17 [大学院]
教育学研究科／医学系研究科／工学資源学研究科

大学施設

19 附属図書館
20 医学部附属病院
22 鉱業博物館
23 附属学校園及び教育研究施設等
24 学内共同教育研究施設
25 センター／技術組織
26 福利厚生施設等／体育施設
27 東京サテライト／
横手分校・北秋田分校・男鹿なまはげ分校
28 インフォメーションセンター

29 平成26年度主な課外行事

資料編

32 沿革
35 歴代学長
36 運営組織
37 教育研究組織
38 事務組織
39 役職員
40 学生の定員・現員
41 入学志願者・入学状況／出身高校所在地別在学状況
42 卒業者・修了者数／学位授与数
43 卒業者等就職状況
44 平成25年度学生表彰等受賞者
46 外国人留学生数／外国人研究員等
47 国際交流協定校
48 公開講座（平成25年度）
49 国内機関との連携・協力協定
50 役員数／教職員数
51 平成26年度予算／外部資金受入状況／
平成26年度科学研究費助成事業採択状況
52 土地・建物
53 各連絡先・所在地一覧
54 手形地区施設配置図
55 本道地区施設配置図／保戸野地区施設配置図
56 アクセス

学長あいさつ

Message from the President

2014年4月。秋田大学はこの春、国際資源学部を新たに創設し、再編した理工学部と教育文化学部に医学部を加えて、4学部体制として新たにスタートしました。

鉱山専門学校をルーツとし、工学資源学部が築いてきた探究心は、理工学部と国際資源学部の新入生と在校生が、その知と志を引き継ぎ育んでいくことになります。少子高齢化の先端を行く秋田ですが、ここに育つ子供たちは「学力日本一」と評価され、まさに秋田の夢をつなぐ資源となっています。教育文化学部の存在、そして夢も、この資源と共にあります。この度の再編で新たにできた地域文化学科とともに、地域や世界に貢献する人材養成の実績を積み上げてまいりましょう。そして医学部。1970年、わが国における戦後初めての医学部として、当時、立ち遅れた秋田の医療を憂いた県民が一丸となって、国を動かし、開設に結びつけたものです。すなわち、医学部は、この地に暮らす人々の命を守る「希望」が源です。このような特色ある各学部で、研鑽を重ね、世界と地域を見据えたリーダーを目指しましょう。

世界は今、人や物、情報などが瞬時に行き交う大競争の中にあります。この動きに、国境などという「壁」はありません。日本が将来にわたって国際社会で信頼、尊敬され、存在感を発揮しつつ発展していくために、皆さんには「秋田大学」という学ぶ場と、「学生」としての時間が与えられています。世界へと続く期待も込められているのです。人格形成とともに、グローバル化に対応する自分自身の「言葉」を磨いてください。言語の分野における第二の開国。学長として、これが日本の直面している現実だと認識しています。若さと才能にあふれる皆さんが、国際人として成長することを、秋田大学は最大限に支援していきます。

キャンパス内では、24カ国・地域から200名を越える留学生の皆さんが、勉学に励んでいます。豊かな自然の四季の移ろいが、そしてここ秋田に住む人々の豊かな人情が、留学生活を実りあるものにしてくれるはずです。人間として共通する感情・知識があるということと、それぞれの文化で培われた多様な考え方、感じ方もあります。国際人として不可欠なこの感性をぜひ、日本の学生とともに秋田の地で磨いてください。

秋田大学は、豊かな地域資源を有する北東北の基幹的な大学として、地域と共に発展し地域と共に歩むという存立の理念を掲げています。地域の現実を踏まえた教育研究の場において、優れた人材の育成に努めるとともに、独創的な成果を世界に発信しつつ、国内外の意欲的な学生を受け入れています。「横手分校」「北秋田分校」「男鹿なまはげ分校」を拠点にした、地域との連携もますます強化していきます。県内外との大学の連携も、さらに深めていきます。

地域・世界を視野に入れた独創的な挑戦。

秋田大学の「使命」には、ここに集う人の数だけ、夢の広がりと可能性を秘めています。

国立大学法人秋田大学長　**澤田　賢一**

第2期中期目標・中期計画

（平成22年4月1日～平成28年3月31日）

Mid-term Objectives and Plan

国立大学法人秋田大学の中期目標

（前文）大学の基本的な目標

秋田大学は、豊かな地域資源を有する北東北の基幹的な大学として、地域と共に発展し地域と共に歩むという存立の理念を掲げる。この見地から本学は、地域の現実を踏まえた教育研究の場において、優れた人材の育成に努めるとともに、独創的な成果を世界に発信しつつ、国内外の意欲的な若者を受け入れることに努める。そのために、他の高等教育機関との連携による柔軟な組織づくりを推進する。

人材育成については、本学を構成する各学部は、それぞれ固有の専門教育によって、さらには諸学諸組織の融合を通じて、地域社会を担う専門的職業人と国際社会に活躍する高度専門職業人及び学術を担う研究者を育成する。このためには、主体性と節度のある社会人となるための充実した教養教育が不可欠である。こうした基本認識に立って、秋田大学は学生と教職員との全学的な知の交わりが躍動する、学習者中心の大学たることを目指す。

以上のような理念と指針に基づいて、活動の基本的な目標を以下に定める。

1. 教育においては、その内容と質が国際的に通用する水準を維持するように努め、時代の諸課題に取り組む人材を育成する。

2. 研究においては、地域の現実から人類的諸課題へ視野を拡大させた、特色ある研究活動を推進し、その成果を継続的に地域と世界に発信する。
3. 社会貢献においては、大学開放事業の推進や医療・福祉の充実、教育・産業振興に参画し、地域の羅針盤としての役割を果たす。
4. 国際化においては、学生教職員の海外留学・派遣を促進し、アジアの国々をはじめとした諸外国の留学生・研究者の受け入れの増加と受け入れ環境の整備に努める。
5. 大学経営においては、学長の指導力を高め、迅速な意思決定の下に、諸資源を効果的に投入することにより、存立基盤を充実させる。

中 期 目 標

Ⅰ 大学の教育研究等の質の向上
Ⅱ 業務運営の改善及び効率化
Ⅲ 財務内容の改善
Ⅳ 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供
Ⅴ その他業務運営
に関する目標を達成するためにとるべき措置として、65項目の中期計画を設定しています。

本学の中期目標・中期計画の全文は
〈ホームページ〉http://www.akita-u.ac.jp/honbu/info/in_target.html からご覧いただけます。

教育研究

卓越した教育と研究

◯博士課程教育リーディングプログラム
　レアメタル等資源ニューフロンティアリーダー養成プログラム
◯産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業
　北海道・東北ブロック～産官学連携による地域・社会の未来を拓く人材の育成～
◯理数学生育成支援事業
　独創的発想に富む科学者育成プログラム
　出る杭を伸ばすヘリックスプロジェクト
◯がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン
　次世代がん治療推進専門家養成プラン
◯秋田大学 地（知）の拠点整備事業
　一人ひとりを大切にし、自立した高齢社会に向けた地域づくり
◯国際科学技術共同研究推進事業
　地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）

社　会　貢　献

国　際　交　流

卓越した教育と研究

博士課程教育リーディングプログラム レアメタル等資源ニューフロンティア リーダー養成プログラム

（実施期間:平成24年度採択～平成31年度）

大学院工学資源学研究科に「資源ニューフロンティア特別教育コース」を開設し、従来の資源経済、さらに環境保全や資源リテラシー、レアアース等の生体影響のほか、異文化理解、国際関係などを含めた知識、能力を養成し、21世紀の国際資源開発に関わる諸課題に俯瞰力をもって挑める人材「資源ニューフロンティアリーダー」の育成を目指します。

産業界のニーズに対応した 教育改善・充実体制整備事業 北海道・東北ブロック

～産官学連携による地域・社会の未来を拓く人材の育成～

（実施期間:平成24年度採択～平成26年度）

平成22年度から取り組んできた就業力の育成に重点を置いた大学教育改革を土台として、さらなるキャリア教育の体系化と充実を目指し、「キャリア形成」「社会人基礎力育成」（=社会で必要とされる力）「就職活動」を高度に連携させた学生支援に取り組んでいきます。キャリア発達を促すためのキャリア形成科目の編成、産業界と連携したフィールドワークの実施など、様々な支援を企画・実施していきます。

理数学生育成支援事業 独創的発想に富む科学者育成プログラム

出る杭を伸ばすヘリックスプロジェクト

（実施期間:平成23年度採択～平成26年度）

理数に優れた能力・意欲を持つ学生を選抜し、大学1年次からネイティブ教員による科学英語、特別のカリキュラム、セミナー、早期研究室配属等の機会を体系的に提供し、海外の大学を訪問することで国際的に活躍できる独創性に富んだ研究者の育成を目指します。また、早期卒業制度を利用することにより、3年次終了後、優秀な学生の大学院入学を認めていきます。

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン 次世代がん治療推進専門家養成プラン

（実施期間:平成24年度採択～平成28年度）

秋田大学が東京医科歯科大学などの在京4大学及び弘前大学と連携して行うがん対策プランです。①各種低侵襲がん治療方法の習得、②総合臨床腫瘍医の養成、③がん診療の地域医療における普及・推進、④がん臨床研究の推進とその成果の実践応用、⑤がん治療に必要な機器の開発に従事できる人材の養成、⑥がん化学療法の質向上に貢献できるがん専門薬剤師の養成などを目指します。

秋田大学 地(知)の拠点整備事業(COC事業) ～一人ひとりを大切にし、 自立した高齢社会に向けた地域づくり～

（実施期間:平成25年度採択～平成29年度）

平成25年度の文部科学省の新規重点補助事業で、事業参画自治体の秋田県横手市、北秋田市、潟上市や地域住民と協働作業を進め、超高齢社会においても希望を持てる「秋田発地域モデル」の構築、そして地域から愛され地域から必要とされる大学の形成を進めています。

国際科学技術共同研究推進事業 地球規模課題対応国際科学 技術協力プログラム（SATREPS）

持続可能な資源開発実現のための空間環境解析と高度金属回収の融合システム研究

（実施期間:平成26年度採択～平成30年度）

環境汚染に悩まされるセルビア共和国の銅資源開発地域において先進リモートセンシングデータと地表データを組み合わせた3次元的な環境評価・解析と高度な金属回収技術を融合し、持続的な資源開発に不可欠な開発と環境との両立を目指した広域環境評価修復システムの研究開発を行います。

社会貢献

秋田大学は、平成16年度の国立大学法人化を契機に、教育・研究・社会貢献を大学運営の重点事項として掲げ、公共的な知の拠点として大学開放事業を推進しています。

本学の社会貢献活動の根底には、学生のみならず生涯学習も教育の一環であり、社会の人々にも積極的に教育資源を提供していこうという思いが込められています。そのコンセプトを基に、様々な活動を展開し、また、高校生やその保護者あるいは小・中学生を対象とした企画も実施しています。

秋田大学の社会貢献事業

■公開講座

生涯学習の一環として、市民・県民の皆様どなたにも本学の良質な教育資源を提供するために、毎年多種多様なテーマで公開講座を開講しています。

※平成26年度開講の講座は秋田大学HPをご覧ください。

■サテライト事業

秋田県内自治体や首都圏において、本学教員による講演会、子ども向け科学教室等を開催しています。本学と秋田県立大学、国際教養大学、秋田公立美術大学の4大学連携による連携事業も行っています。

■子ども見学デー

毎年夏休みに、小学生とその保護者の方を対象に「子ども見学デー」を実施しています。大学内の見学や研究室での実験、天体望遠鏡での観察など、様々な体験を通じて、大学に対する関心を高めてもらうことが目的です。

■小・中学生等の大学見学受け入れ

総合学習や職場体験学習の一環としての小・中学生の大学見学や、PTA研修等を随時受け入れています。職員が学内を案内したり質問に答えたりしながら、秋田大学を紹介します。また、要望があれば研究室を訪問し教員や学生へインタビューすることも可能です。

■自治体との連携

秋田大学が持つ教育・研究資源の提供と、地域活性化の促進を目的に、秋田県内自治体と連携協定を締結しています。「地域に根ざした大学」を目指し、講演会の開催や学生の地域交流等による社会貢献を行っています。

平成26年5月1日現在、秋田県を含む13の自治体と連携協定を締結しています。

■メディカル・サイエンスカフェ・ネクスト

平成23年度まで秋田大学大学院医学系研究科の教員が最新の医学研究の成果を分かりやすく解説し、参加者とその話題について自由に意見交換をする「秋田メディカル・サイエンスカフェ」を開催していましたが、平成24年度より新たな試みとして、教育文化学部の教員と、また平成25年度からは大学院工学資源学研究科の教員を含めたコラボレーションにより「メディカル・サイエンスカフェ・ネクスト」として全学的に開催しています。気軽に参加いただけるように会場には飲み物を用意し、くつろいだ雰囲気で大学の教育・研究資源を提供しています。

地域防災

1. 秋田県の特性を考慮した地域防災のあり方に関する調査・研究

①秋田県内の地震・防災について基礎的研究を行います。

②秋田県沿岸部で過去に発生した津波の影響範囲や履歴を調査し、津波被害の軽減について研究します。

③秋田県内に将来甚大な被害をもたらす可能性がある地震・津波について調査・研究します。

2. 防災について地域で活動できる人材の育成

①地震災害が発生した場合に、地域住民自らが減災活動を行えるように、自治体・町内会等で防災教育を実施します。

②県内の幼保小中高等学校で防災教育を実施します。

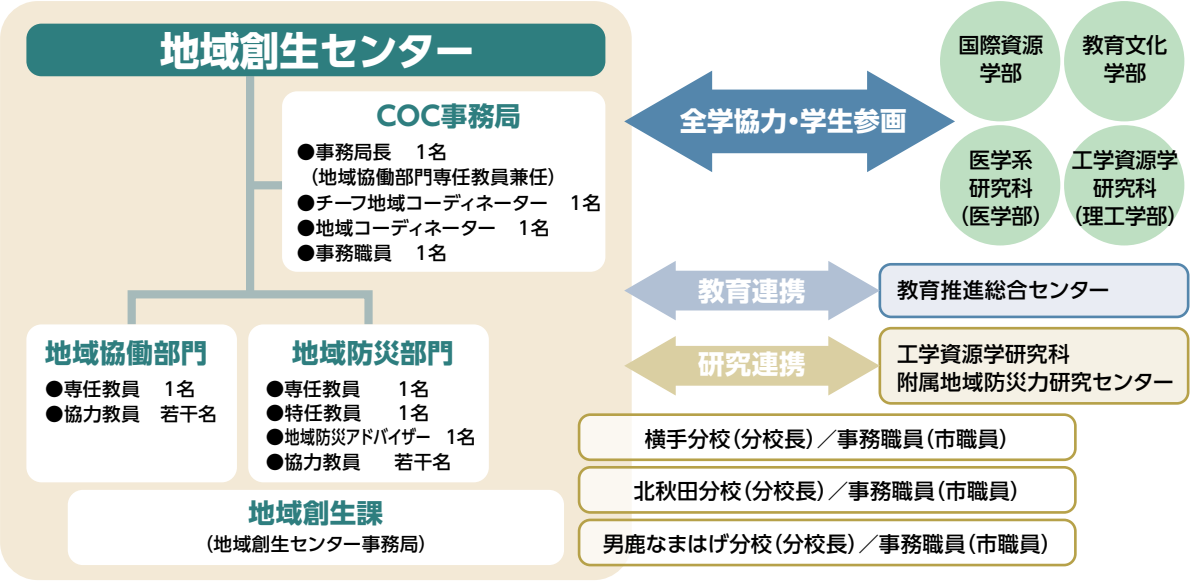
3. 県および市町村への防災施策に関する指導・助言

①秋田県の地震被害の想定並びに地震防災対策を推進するために必要な指導・助言を行います。

②県内自治体が考える防災・減災対策について、地域の特性を考慮しながら指導・助言を行います。

地域との架け橋へ

地域創生センターは「地域再生のための知の創生の見地から、地域と連携し、地域の活性化、教育活動、住民活動への助言や地域の防災等に関する研究と支援等を行い、地域の発展及び安全・安心な地域社会の形成に寄与する」ことを目的に平成23年4月1日に設立しました。秋田大学が実施する「地域との連携・地域への貢献」活動について「地域協働部門」の活動を明確にすることで、地域の持続可能な発展について寄与していきます。また、平成23年9月1日には「地域防災部門」を開設し、地震災害について調査・研究し、地域の防災対策に取り組んでいます。地域創生センターは、地域が抱える問題を秋田大学の課題ととらえ、地域の方々と一つになって課題解決に取り組んでいきます。

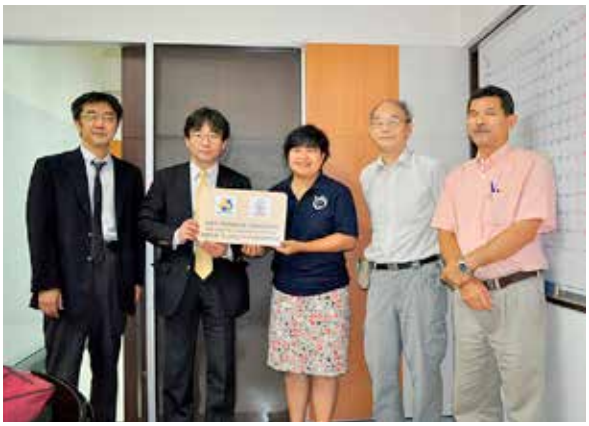


国際交流

世界に広がる学術ネットワーク

今まで大学間協定は27カ国・地域51大学、部局間協定は8カ国・地域15学部等となりました（平成26年5月1日現在）。平成24年10月に、秋田大学初の海外拠点「秋田大学モンゴル事務所」を開所しました。また、平成25年4月に、二つ目の海外拠点となる「秋田大学・チュラロンコン大学共同研究所」をタイ王国のチュラロンコン大学内に開設しました。

今後も、協定校との学術交流、学生交流を推進し、積極的な国際交流をすすめていきます。



秋田大学・チュラロンコン大学共同研究所（平成25年4月25日）

資源に挑む　秋大の「舞台」は世界へ

資源を持たない日本が、いかに資源を獲得するか。レアメタル、資源ナショナリズム、都市鉱山といったキーワードがメディアを飾る今日、世界が資源を軸に回っているのは誰の目にも明らかです。各国が資源の「争奪戦」を繰り広げる中、秋田大学の存在感が高まっています。

資源探査、採鉱、選鉱という資源開発の一連の流れを学べる国内唯一の大学である秋田大学、ここに全国から資源分野における第一人者が集まり、日本を含む世界から留学生、研修生、研究員を受け入れて、資源開発のエキスパートを育成しています。

この取り組みの中心となっているのが、平成21年10月に設置した秋田大学国際資源学教育研究センターです。資源学研究に特化し、資源開発における研究拠点を目指しています。工学資源学部を母体とするセンターですが、センター教員が長期出張しやすいようにと、全学センターの施設としています。

センターが現在、力点をおいているのが、資源保有国への技術支援です。センターの設置は、アフリカの資源国・ボツワナ共和国政府から秋田大学に、資源系技術者を育成して欲しいという要請を受けたのが発端でした。

自国で資源を持ちながら開発に困難をともなう国々へのノウハウ提供。ボツワナ以外にもモンゴル、カザフスタン…。他の資源未開発国への技術支援も始まっています。

前身の秋田鉱山専門学校創立から数え、100年以上の歴史を誇る秋田大学。地方の大学でありながら、いわば「資源外交」の一翼を担う立場として英知を集結し、将来につなげようとしています。

知の協力が、日本の資源セキュリティー・安定供給体制の確立につながっていきます。秋田で長年培った技術が世界に挑みます。

秋田大学は世界に開かれた大学として国際交流の拡大を図っています。そのために、学生及び教職員の海外留学・派遣の促進と外国人留学生の受け入れの増加、受け入れ環境の整備等に努めています。平成20年2月には国際交流センターを設立し、戦略的な国際交流を進めるための体制が整いました。

外国人留学生に対する教育・生活支援の充実

留学生数の増加に伴い、教育支援体制の整備も積極的に行っています。

平成21年度には私費外国人留学生のための、本学独自の奨学金(秋田大学私費外国人留学生奨学金)を創設しました。これにより、協定校等からの成績優秀な留学希望者に対し、奨学金を支給できるようになりました。

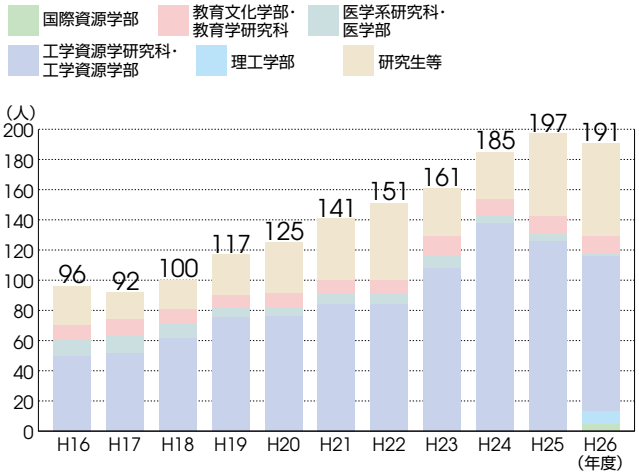
平成26年度には、日本学生支援機構の留学生交流支援制度(短期受入れ)に、「秋田大学国際交流体験プログラム(AUEP)」が5年連続で採択され、奨学金の受給枠が増えることにより、協定校からの交換留学生の増加につながりました。AUEPは体験型マルチリンガル授業や英語による専門的な授業により、コミュニケーション能力の獲得や秋田の文化に対する理解を目指すプログラムとなっています。

秋田の文化に対する理解を深めるため、農家民泊やもちつき、横手かまくらやスキー合宿など、地域に根ざしたイベントを企画し実施しています。また、「チューター制度」を採用することにより、日本人学生が留学生の日本語学習や生活のサポートを行っています。

平成22年4月には多様な言語を自律的に学べるスペースとして「多文化交流ラウンジ」が設置され、海外留学説明会や報告会を定期的に開催しています。

多文化交流ラウンジ

〈留学生数の推移〉



国際的視野を持った人材の育成

若手教育系職員を海外の大学等に派遣し、国際的な視野を持った人材の育成を目指すため、「秋田大学研究者海外派遣事業」を実施しています。制度化した平成20年度から今までに、毎年約4名程度、計18名の研究者がこの制度を利用し、海外の大学で研究を行いました。

また、学生に対しては、協定校などの海外の大学へ留学する際の経済的支援のため、「秋田大学学生海外派遣支援事業」を実施しています。これは往路に要する国際線の航空運賃の一部(アジア圏上限4万、それ以外上限10万)を支給するもので、平成25年度は5名に対して支援を行いました。

海外留学説明会(平成25年5月22日)

学部・大学院

［学　部］

国際資源学部
Faculty of International Resource Sciences

教育文化学部
Faculty of Education and Human Studies

医　学　部
Faculty of Medicine

理 工 学 部
Faculty of Engineering Science

［大学院］

教 育 学 研 究 科
Graduate School of Education

医 学 系 研 究 科
Graduate School of Medicine

工学資源学研究科
Graduate School of Engineering and Resource Science

国際資源学部

国際資源学部は、資源形成メカニズムの解明から資源探査、開発・生産を対象とした理工系分野と、資源国の政策・文化や資源経済などを対象とした人文社会系分野からなり、資源を網羅的に学ぶことができる我が国唯一の「資源学」を対象とした学部です。世界の第一線で活躍する教授陣を結集し、世界をフィールドに、資源の最先端を学びます。国内外の大学や企業、研究機関との強力な連携体制のもと、国際舞台で活躍できる資源人材を養成します。

■学部の構成（1学科）

【国際資源学科】

地球規模の資源問題解決に向けて、国際的な視野をもち、実践的能力を育みます。

●資源政策コース

資源を取り巻く国際情勢や政策を理解し、関連する国際法や資源経済、資源国との契約や交渉術、その背景となる資源国の文化などについて学びます。

●資源地球科学コース

世界を対象とした資源分野の予測と新たな地球資源の可能性を探究するため、地質学、鉱床学などの最先端地球科学を基礎とした地球史をダイナミックに考察します。

●資源開発環境コース

資源・エネルギーの探査・開発、生産手法から、製錬・リサイクル技術や環境保全に至るまで、資源開発と地球環境との関わりを包括的に学びます。

カリキュラムの特色

コース	1年次	2年次	3年次	4年次
資源政策コース	〈教養教育科目〉 ○初年次ゼミ ○主題別科目 現代社会 人間と文化 科学の探求 生活と保健 地域社会 技能の活用 ○国際言語科目 ○スポーツ文化科目 〈基礎教育科目〉 国際資源外交史 異文化コミュニケーション 資源開発と人権問題 基礎資源経済学 日本の国際協力 基礎数学 基礎物理学 基礎化学 基礎物理学実験 基礎化学実験	資源学実習（全学生必修） 〈専門科目〉 ●資源政策論　●国際法学 ●交渉学　●石油資源論 ●エネルギー地政学 ●資源地域研究　●資源動向論 ○地質図学　等	〈専門科目〉 ●国際情勢分析論　●鉱業法 ●資源契約論　●資源環境経済学 ●人的資源管理論 ○資源開発生産論　○資源循環学 ○リサイクルシステム学　等	海外資源フィールドワーク（全学生必修） ●資源プロジェクトマネジメント ●研究プロポーザル 等
資源地球科学コース		●地史学　●石油地質学　●鉱物学 ●金属鉱床学　●岩石学 ○材料力学　○地球物理学 ○資源処理工学　等	●構造地質学　●古環境解析学 ●堆積学　●X線結晶学 ●リモートセンシング地質学 ●防災地質学 ○物理探査学　○岩石力学　等	●応用金属鉱床学 ●応用鉱物学 ●研究プロポーザル 等
資源開発環境コース		●流体力学　●物理化学 ●石油工学　●工業製図 ●粉体・界面工学 ●分析化学　●地球化学 ○金属鉱床学　等	●物理探査学　●資源探査学 ●岩盤工学 ●リサイクル・廃水処理工学 ●資源開発生産論　●素材開発工学 ●製錬プロセス工学 ○資源環境経済学　等	●資源開発環境文献購読 ●研究プロポーザル 等

卒業課題研究

●●●＝必修科目

I-EAP（集中大学英語）
「I-EAP」とは、Intensive-English for Academic Purposesの略。英語力を「読む（reading）」「聞く（listening）」「書く（writing）」「話す（speaking）」「プレゼンテーション（presentation）」の5つの技能に区分し、8週間一区切りで個別技能の教育を行う集中講座。授業は全て英語で行い、技能別に目的とクラスレベルに合った教材を担当教員が選定し、少人数編成のクラスで基礎英語力を徹底的に鍛えます。

ディスカッション演習
ディベート演習
プレゼンテーション技法
実際に英語で議論ができるようになることを目標に学習を進めていきます。語学力の面でも、国際的な最前線で戦える力を身に付けます。

国際資源クリエイティブ演習
全学生必修の海外資源フィールドワーク（鉱山・石油関連企業や商社・国際協力機関等での4週間程度の実習）の目的を理解し意義あるものにするため、事前・事後学習を設けます。

〈学部共通科目〉●国際関係論概論 ●地球科学概論 ●資源地域社会学概論 ●資源地質学概論 ◉資源開発環境学概論　◉＝必修科目

基礎　資源を学ぶ上で基礎となる知識を習得する。

発展　学部共通科目で学んだ資源の基礎的知識を基盤として、各コースの専門に関連する分野を発展的に理解する。

実践　海外における実践的な学びにより、世界の資源フィールドで活躍するための広い視野を身に付ける。専門性を高め、卒業課題研究で取り組むテーマを明確にする。

専門科目は全て英語で履修

世界で活躍するために、英語力は必須です。国際資源学部では、1・2年次に「I-EAP」という特別なカリキュラムで集中的に英語を学びます。また、ディスカッション演習、ディベート演習によって、実際に英語で議論ができるようになることを目標に学習を進めていきます。こうした実践的な英語学習を経て、専門科目の講義は全て英語で行います。語学力の面でも、国際的な最前線で戦える力を身に付けることができるカリキュラムを用意しています。

文理融合カリキュラム

海外で資源の開発を行う上で、その国の政治・経済状況、文化や宗教観を知っておくことは、極めて重要な意味を持っています。また、資源を扱うには、文化だけでなく、その国特有の事情や関連する法律についても知らなくてはなりません。専門科目の一部はコースを横断して履修できるカリキュラムとなっており、文系理系の枠を越えて資源学を修める上で共通に求められる知識・技術を修得することができます。企業が海外での資源戦略を展開する上では、文系の人間と技術系の人間の両方が必要になり、資源開発において文理両方の視点は必須となります。

海外実習必修の教育制度

3年次の後半に、全学生が海外資源フィールドワークに参加します。国際資源学部を設立するにあたって、国内の大学や企業はもちろん、海外の大学や企業からもご協力をいただき、国際資源学部の120名全員が海外で1カ月程度のフィールドワークを体験できるネットワークを用意しています。候補地としては、ヨーロッパや北米、モンゴルやインドネシアなど、世界各地の鉱床などがあります。運営されている鉱床そのものを見たり、それに附属する研究施設を見学したりして、実際に稼働している資源開発の現場に入ることで、これから自分の取り組む研究のテーマを体験します。

教育文化学部

教育文化学部は、教員養成を担う「学校教育課程」と地域協働の核となる「地域文化学科」の1課程1学科で構成しています。「学校教育課程」は、教育現場との密接な連携を図りつつ、現場実践力のある教員を養成、全国最高水準の秋田県教育の継承と活性化を目指します。「地域文化学科」は多様なあるいは海外からの視点から地域課題について学び、地域で実践的に働ける人材を養成します。

■学部の構成（1課程1学科）

【学校教育課程】

地域の教育の活性化に貢献する教員を養成します。

●教育実践コース

小学校教員の養成を主とし、中学校教員養成も含めて、小中連携にも対応できるようになるとともに、子どもの心身の成長発達について理解を深め、全国トップクラスの学力を支える高度の実践力を持った教員を養成します。

●英語教育コース

小中高の連携による英語教育を実践できるとともに、秋田の次世代のグローバル人材を育てるために、英語力のみならず国際コミュニケーション能力を持った教員を養成します。

●理数教育コース

理科・数学の体系的な知識と指導法を身に付け、理科や数学のおもしろさを子どもに伝えることができ、実感を伴った理解へと学習を発展させることができる教員を養成します。

●特別支援教育コース

特別支援学校および小・中学校等で特別支援教育を担うとともに、インクルーシブな環境で、発達の特性や特別なニーズに対応した支援を実践できる教員を養成します。

●こども発達コース

幼稚園や保育所の教員・保育士の養成を主とし、小学校教員養成も含めて、幼保小連携に対応できるスキルを身につけるとともに、人間の生涯にわたる発達過程や、幼児教育・保育と学校教育の全過程を見通しながら省察できる教員を養成します。

【地域文化学科】

地域活性化に貢献する人材を養成します。

●地域社会コース

地域の多様な生活資源・環境資源・文化資源の発掘・再評価を行い、従来とは異なる生活・産業や働き方を提言できる人材や、地域課題の把握・分析を行うことで、新たな地域のあり方を描き直して、その実現に貢献できる人材を養成します。

●人間文化コース

日本および海外の多様な歴史や言語・文化・芸術を幅広く学びながら、その知識を活用して、地域の文化的資源の継承・創造・再生や、地域における生涯学習等の中核として活躍できる人材を養成します。

医学部

医学部は、豊かな教養に支えられた人間性、学問の進歩に対応しうる柔軟な適応能力と課題探究・問題解決能力を養い、医学・健康科学に対する充分な理解のもとに、人々の健康と福祉に貢献できる国際的視野を備えた人材を育みます。卒業後は、臨床現場で医療人として活躍する道のほか、大学院に進学し研究者や教育者をはじめとする医学医療の高度な専門家を目指す道が開かれています。

■学部の構成（2学科）

【医学科】

医学教育部が設置されており、大学院所属の教員が教育を担当し、医療に関する幅広い専門知識と高度な技術を身につけた人材を養成します。

【保健学科】

看護学・理学療法学・作業療法学の3専攻6講座を設けており、医療専門職（看護師、保健師、助産師、理学療法士、作業療法士）を養成します。

医学科	教育担当組織 ※医学教育部が教育を担当する。	
保健学科	専攻	教育担当組織
	看護学	●基礎看護学講座 ●臨床看護学講座 ●母子看護学講座 ●地域・老年看護学講座 ●理学療法学講座 ●作業療法学講座
	理学療法学	
	作業療法学	

医学科 6年

入学

初年次ゼミ
教養基礎教育科目

専門教育科目

臨床実習

卒業試験

卒業

学位：学士（医学）

●医師国家試験

保健学科 4年

◆看護学専攻
◆理学療法学専攻
◆作業療法学

初年次ゼミ
教養基礎教育科目

専門科目
専門基礎科目

臨地実習
臨床実習

卒業研究

卒業

学位：学士（看護学・保健学）

●看護師国家試験

●理学療法士国家試験
（助産師国家試験）
（保健師国家試験）

●作業療法士国家試験

理工学部

理工学部は、「理」に裏打ちされた専門能力と高い倫理性を持ち、学際分野にも目を向けられる、総合力で日本や地域に貢献できる人材の育成に力を注ぎます。1･2年次では理学に関する教育を徹底して行い、3･4年次ではその知識を専門という場で活用しながら身につけていきます。自ら課題を発見でき、未知の分野の課題に対しても幅広い視野から、柔軟に解決できる能力を修得させる学士課程教育を実施します。

■学部の構成（4学科）

【生命科学科】

ライフサイエンス分野のさまざまな課題に挑戦する研究者･技術者を育成します。

●生命科学コース

多様な生命現象を、生体を構成する分子レベル、個々の細胞や個体レベル、生物の集団レベルで解明することについて学びます。

【物質科学科】

先端機能材料や化学プロセスに携わる研究者･技術者を育成します。

●応用化学コース

無機材料、有機材料、エネルギーに関連した化学工学からバイオプロセスまで幅広い化学の専門分野を学びます。

●材料理工学コース

固体物理学、固体化学、金属材料学、セラミック材料学を中心として基礎科学から材料の工学的応用までの幅広い分野について学びます。

【数理･電気電子情報学科】

数学･物理から電気･電子、情報通信の各分野をリードする多彩な人材を育成します。

●数理科学コース

代数学、幾何学、解析学、離散数学、量子力学、電磁気学を中心として、数理科学とコンピュータサイエンスについて学びます。

●電気電子工学コース

電力工学、半導体デバイス工学、計測エレクトロニクス、電気機器学を中心として、電気･電子･情報･通信工学を支える基盤技術について学びます。

●人間情報工学コース

ヒューマンコンピュータインタラクション、福祉情報工学、画像解析学、情報通信とネットワークを中心として、コンピュータサイエンスを基礎とした高度な応用技術を学びます。

【システムデザイン工学科】

新しいものづくりができる実践的な技術者を育成します。

●機械工学コース

材料力学、流体力学、熱力学、機械力学、制御工学、ナノテクノロジー、医療工学、バイオメカニクス、ロボット工学を中心として、あらゆる産業の基盤をなす機械工学について学びます。

●創造生産工学コース

設計工学、創造製作学、電気電子回路、システム制御工学、ロケット工学、プロジェクト実践研究を中心として、工学分野について幅広く学びます。

●木環境工学コース

構造設計学、建設材料学、地盤防災工学、環境水理学を中心として、安全･安心･快適な地域環境を創造･保全する技術について学びます。

■通信教育講座

秋田大学理工学部には、国立大学法人唯一の「社会通信教育講座」があります。昭和23年の開講以来、伝統と歴史を背景に、約1,700名以上の修了生を社会に輩出しています。

科学技術に関する教養的な知識を得るための一般科学技術コースと、資源系、材料系、電気電子系の基礎及び専門を学べるコースが用意されています。

大学院

教育学研究科

教育学研究科は、学校教育または心理・発達に関する高度な専門知識、各教科の高度な専門的知識、学校教育におけるマネジメント能力や授業実践力などの習得を目的としています。現職教員受入のほか、海外からの入学も積極的に進めています。

修士課程	
学校教育専攻	学校教育専修　心理教育実践専修
教科教育専攻	国語教育専修　社会科教育専修　数学教育専修 理科教育専修　音楽教育専修　美術教育専修 保健体育専修　家政教育専修　英語教育専修

医学系研究科

医学系研究科は、人類の健康・福祉の発展に寄与する医学・医療・生命科学の最先端研究を推進できる国際的視野を備えた優れた研究者・高度専門医療人を育成することを目的としています。

修士課程		
医学科専攻		
博士前期課程・博士後期課程		
保健学専攻	博士 前期課程	看護学領域 リハビリテーション科学領域
	博士 後期課程	女性・小児発達支援科学分野 生活機能・健康行動支援科学分野
博士課程		
医学専攻	病態制御医学系　腫瘍制御医学系　機能展開医学系 社会環境医学系　臨床教育協力部門	

工学資源学研究科

工学資源学研究科は、工学資源学部の設立理念に立ち、新しい研究領域を創出するため、前期課程は学部の学科に対応する9専攻とし、新たな理念に基づいた後期課程5専攻で構成しています。

博士前期課程	
地球資源学専攻	応用地球科学　地球システム工学
環境応用化学専攻	分子化学　化学工学
生命科学専攻	生命科学
材料工学専攻	材料物性学　知能材料学 エネルギー材料学　材料開発工学
情報工学専攻	情報工学　数理科学
機械工学専攻	機械物理工学　機械ダイナミックス システム設計　ロボティクス・福祉工学
電気電子工学専攻	電気エネルギー工学　光・電子デバイス工学 知能情報通信工学　制御システム工学
土木環境工学専攻	福祉環境工学　環境構造工学　地域環境工学
共同ライフサイクルデザイン工学専攻	ライフサイクル戦略学 環境調和型システム工学
博士後期課程	
資源学専攻	資源地球科学　資源環境学 環境資源サイクル工学
生命科学専攻	生命科学
機能物質工学専攻	機能材料工学　環境応用化学
生産・建設工学専攻	生産システム工学　社会基盤工学 福祉システム工学
電気電子情報システム工学専攻	電気情報基盤システム工学 電子情報基盤システム工学

資源ニューフロンティア特別教育コース（5年一貫博士課程[コース]）	
前期課程	地球資源学専攻　環境応用化学専攻
後期課程	資源学専攻　機能物質工学専攻

大学施設

附属図書館

医学部附属病院

鉱業博物館

附属学校園及び教育研究施設等
◯附属幼稚園 ◯附属小学校 ◯附属中学校 ◯附属特別支援学校
◯附属教育実践研究支援センター ◯附属鉱業博物館
◯附属病院 ◯附属病院シミュレーション教育センター
◯附属理工学研究センター
◯附属ものづくり創造工学センター ◯附属地域防災力研究センター

学内共同教育研究施設
◯生体情報研究センター ◯総合情報処理センター ◯ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー
◯バイオサイエンス教育・研究センター ◯放射性同位元素センター ◯環境安全センター
◯ベンチャーインキュベーションセンター ◯産学連携推進機構
◯国際資源学教育研究センター ◯地域創生センター

センター
◯評価センター ◯教育推進総合センター ◯学生支援総合センター
◯教員免許状更新講習推進センター ◯国際交流センター

技術組織
◯総合技術部

福利厚生施設等
◯保健管理センター ◯大学会館(クレール)〈手形キャンパス〉 ◯本道会館(メディココ)〈本道キャンパス〉
◯学生寮 ◯国際交流会館 ◯留学生会館 ◯乳頭ロッジ

体育施設
◯陸上競技場 ◯野球場 ◯球技場 ◯ハンドボール場 ◯大体育館 ◯小体育館
◯柔剣道場(武道場) ◯弓道場 ◯テニスコート ◯プール(25m) ◯運動場

東京サテライト

横手分校・北秋田分校・男鹿なまはげ分校

インフォメーションセンター

附属図書館　University Library

中央図書館（正面玄関）

●附属図書館は中央図書館（手形キャンパス）と医学図書館（本道キャンパス）からなり、図書・雑誌・視聴覚資料・電子情報等の学術資料の体系的な収集管理と提供を行っています。

●蔵書冊数　中央図書館：422千冊　医学図書館：109千冊

〈開館時間〉

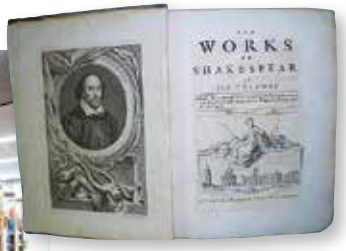
区　分	授業期間	長期休業期間
平　日	8:30～22:00	8:30～17:00
土・日・祝	12:00～18:00	休　館

●附属図書館は学生・教職員の学習・教育・研究の支援をしています。学生のアクティブ・ラーニングを実現する新しい学びの場としてコモンズ・グループ学習室が整備されています。また、地域に開かれた図書館として、一般の方にも開放しており、閲覧・貸出サービスをご利用いただくことができます。

〈サービス内容〉

●閲覧　●貸出・予約
●文献複写　●レファレンス
●蔵書検索　●各種データベース
●PC・電子黒板等の機器利用

中央図書館閲覧フロア



特別コレクション。
18世紀に出版された
シェイクスピア全集等を
所蔵しています

中央図書館ラウンジ

中央図書館コモンズ

医学図書館コモンズ

●詳細についてのお問い合わせは
〈中央図書館・利用サービス担当〉
TEL.018-889-2279　E-mail : riyos@lib.akita-u.ac.jp
〈医学図書館〉
TEL.018-884-6052　E-mail : ibun@lib.akita-u.ac.jp

〈附属図書館ホームページ〉
http://www.lib.akita-u.ac.jp/

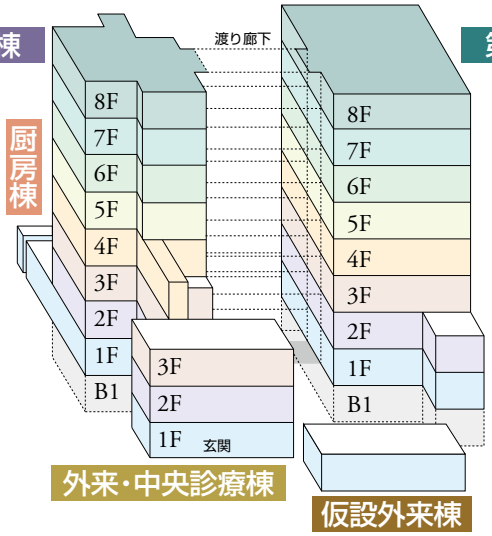
医学部附属病院

医学部附属病院（正面）

医学部附属病院は、教育研究施設であるとともに、地域における医療機関の中核として各専門分野にわたる豊富な知識と最新の医療機器等による診療機能を駆使する医療機関であり、平成６年には特定機能病院として承認を受け、地域に対する指導的役割を担う病院として、今後なお一層地域社会への貢献を行います。

また、患者にとって安心できる医療環境の下で、良質で高度な医療を適切に提供することをとおして、優れた医療人の育成と医学研究の進歩のため積極的に役割を果たすとともに、地域医療・保健活動の中心としての役割を担い、さらに国際的にも貢献できるよう努めます。

〈病院案内図〉



平成26年7月1日現在

		第一病棟	外来・中央診療棟	第二病棟
	8F	整形外科　神経内科		血液内科　腎臓内科 リウマチ科
	7F	眼科　呼吸器外科 乳腺・内分泌外科		呼吸器内科　耳鼻咽喉科
	6F	消化器外科　麻酔科　食道外科		消化器内科　腫瘍内科
	5F	小児科　小児外科 新生児集中治療管理室（NICU） 回復期治療室（GCU）		産科婦人科　周産母子センター
	4F	脳神経外科　皮膚科 医療安全管理部　理容室		循環器内科　心臓血管外科
	3F	集中治療部（ICU） 中央手術部	精神科　皮膚科　病理部　相談支援センター	精神科
	2F	血液浄化療法部	中央検査部　聴覚・臭覚検査室　平衡機能検査室　外来化学療法室 泌尿器科　歯科口腔外科　耳鼻咽喉科　消化器外科 消化器内科　輸血部	泌尿器科 糖尿病・内分泌内科 老年内科
厨房棟 栄養管理部	1F	放射線診断科 放射線治療科 歯科口腔外科	売店　中央病理部　中央放射線部 リハビリテーション部　リハビリテーション科　栄養相談室　整形外科 総合診療部　放射線診療科　放射線治療科　神経内科 糖尿病・内分泌内科　老年内科　心療センター　麻酔科　漢方外来 循環器内科　呼吸器内科　リウマチ科 呼吸器外科　食道外科　乳腺・内分泌外科　心臓血管外科　眼科 感染制御部　薬剤部　血液内科　腎臓内科	救急部 救急科 救急外来 内視鏡・超音波センター
	B1	医療情報部　電子計算機室 放射線治療センター 中央材料部　SPDセンター		臨床工学センター

仮設外来棟

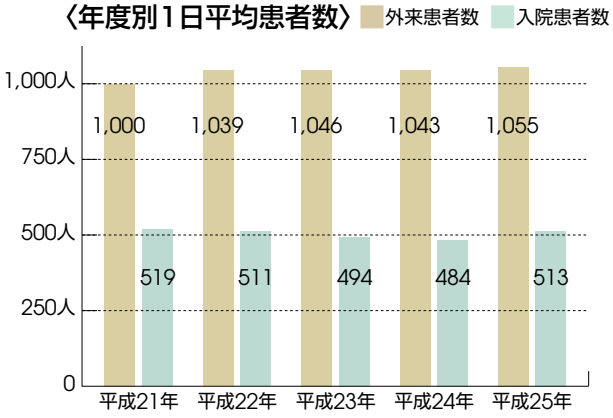
1F	外来受付・会計　入院案内　医事課　医療サービス室 小児外科　小児科　産科　脳神経外科　婦人科 ATM

〈診療科別入院及び外来患者数〉

平成25年度

区分	入院		外来	
	延患者数	一日当平均患者数	延患者数	一日当平均患者数
消化器内科	13,947	38	19,610	80
神経内科	2,724	7	5,106	21
循環器内科	8,491	23	16,400	67
呼吸器内科	6,048	17	6,060	25
血液内科	12,324	34	5,907	24
腎臓内科	1,341	4	2,429	10
リウマチ科	2,157	6	6,714	27
糖尿病・内分泌内科	3,920	11	16,342	67
老年内科	0	0	0	0
消化器外科	8,897	24	4,468	18
呼吸器外科	4,224	12	1,717	7
食道外科	6,516	18	1,815	7
乳腺・内分泌内科	1,458	4	4,512	18
心臓血管外科	11,417	31	2,822	12
脳神経外科	10,404	29	8,013	33
小児外科	1,156	3	1,753	7
小児科	10,192	28	8,200	33
産科	5,102	14	4,370	18
婦人科	5,710	16	16,389	67
精神科	10,824	30	19,757	81
整形外科	12,952	35	15,821	65
皮膚科	5,309	15	17,953	73
泌尿器科	11,259	31	14,662	60
眼科	9,492	26	16,749	68
耳鼻咽喉科	12,336	34	16,331	67
放射線診断科	82	0	1,039	4
放射線治療科	3,065	8	3,004	12
麻酔科	84	0	1,211	5
リハビリテーション科	0	0	0	0
腫瘍内科	1,766	5	1,701	7
救急科	369	1	2,752	11
歯科口腔外科	3,646	10	13,811	56
計	187,212	513	257,418	1,051

〈年度別1日平均患者数〉



〈中央診療施設等〉

●中央検査部　●中央手術部　●中央放射線部
●中央材料部　●集中治療部　●救急部　●輸血部
●リハビリテーション部　●医療情報部
●血液浄化療法部　●中央病歴部
●周産母子センター　●病理部　●総合診療部
●治験管理センター　●臨床工学センター
●移植検査センター　●卒後臨床研修センター
●医師キャリア形成支援センター
●内視鏡・超音波センター　●遺伝子医療部
●腫瘍情報センター　●相談支援センター
●化学療法部　●緩和ケアセンター
●心療センター　●栄養管理部　●肝疾患相談センター
●医師総合支援センター　●腎疾患先端医療センター

●医療安全管理部　●感染制御部　●薬剤部　●看護部

ヘリポート及び立体駐車場

鉱業博物館

Mineral Industry Museum

〈入館案内〉

●開館時間／9:00～16:00
●休 館 日／年末年始(12月26日～翌年1月5日)
●入 館 料／〈 大 人 〉100円
〈高校生以下〉無料

1階展示室
魚眼石(インド・ジャルゴアン)

〈平成26年度鉱業博物館行事〉

●ジュニアサイエンススクール

〈期間〉7月下旬(2日間) 〈対象〉小学校6年生

●国民文化祭特別展
(第29回国民文化祭・あきた2014応援事業)

〈期間〉10月～11月
〈会場〉鉱業博物館

サイエンスボランティアによる案内

ミュージアムショップ

平成25年度ジュニアサイエンススクール
「地層と化石から昔のできごとを考えよう!
～貝化石の採集と標本作り～」

中央ホール

附属学校園及び教育研究施設等

Affiliated School Facilities for Education and Research

附属中学校

平成26年5月1日現在

区分		総定員	学級数	現員 1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
附属幼稚園	2年保育	100	5	―		〈4歳児〉37		〈5歳児〉39		76
	3年保育	60		〈3歳児〉22		〈4歳児〉22		〈5歳児〉20		64
附属小学校		675	18	97	92	93	89	94	100	565
附属中学校		480	12	148	145	145	―			438
附属特別支援学校	小学部	18	3	5		7		5		17
	中学部	18	3	7	7	8	―			22
	高等部	24	3	10	8	7	―			25

〈教育文化学部〉

●附属学校園

〈教育文化学部〉

●附属教育実践研究支援センター

【施設目的】
学習環境及び教育臨床等の教育実践に関する総合的研究

【研究部門等】
学校教育研究部門、教師発達研究部門、教育臨床研究部門、学校連携推進室、教職キャリア支援室、臨床心理相談室

〈国際資源学部〉

●附属鉱業博物館

【施設目的】
●鉱業に関する教育、研究及び調査を行う
●鉱業関係の博物館資料の収集、保管及び展示

●標本資料／約20,000点 ●模型／約100点

〈医学部〉

●附属病院

【施設目的】
患者の診療を通じて医学の教育及び研究を行う

●診療科／32科 ●病床数／613床

〈医学部〉

●附属病院シミュレーション教育センター

【施設目的】秋田県内医療人の更なるスキルアップと質の高い専門医の養成に繋げ、医学シミュレーション教育が秋田県の医療再生の礎となるよう、秋田県と秋田大学の協同によって開設

●1階：TVセミナー室　●2階：緊急処置ラボ、臨床基本手技ラボ　●3階：外科研修室、外科手技ラボ、産婦人科手技ラボ、臨床専門手技ラボ

〈工学資源学研究科〉

●附属理工学研究センター

【施設目的】
理学と工学の融合により、環境・エネルギー・材料等の分野で、地域社会に役立ち、世界に発信できる研究を行う

【研究部門等】
地球環境研究分野、環境調和型材料・プロセス研究分野

〈工学資源学研究科〉

●附属ものづくり創造工学センター

【施設目的】
ものづくり実践・実習教育の推進と創造型エンジニアの育成及びものづくりや科学技術に関するセミナー等を通して、地域社会へ貢献する

【センター活動内容】
学生自主プロジェクト、子どもものづくり教室、大人ものづくり教室、ライセンス講習会、ものづくりレクチャーシリーズ、能代宇宙イベント、一般社団法人あきた宇宙コンソーシアム、ものづくりサプライセンター

〈工学資源学研究科〉

●附属地域防災力研究センター

【施設目的】
自然災害の防止・軽減に資する研究を推進するとともに、地域の防災・減災に関する研究と支援等を通して、安全・安心な地域社会の形成に貢献する

【研究部門等】
地震災害分野、津波災害分野、河川災害分野、斜面災害分野、火山災害分野、情報・計画分野

学内共同教育研究施設

●生体情報研究センター

【設置目的等】
脂質、タンパク質、核酸等の生体情報分子に関わる特色ある研究活動の実施、国内外の関連機関、例えば群馬大学等と有機的な連携、ならびに国民との科学・技術対話の環境整備を行い、本学発の研究成果を継続的に地域と世界に発信する

●総合情報処理センター

【設備等】
●教育用PC(計388台)：PC実習室1～5、PC実習室A/B、本道PC実習室、グループ学習コーナー、スキャナーコーナー、多言語コーナー
●情報サービス：Webメール、学習支援システム、大判プリンタ、大規模演算サーバ(Express5800/A1080a-D)、仮想サーバホスティング(Express/B120b-d)
●情報ネットワーク
有線LAN(フロアスイッチまで1～4Gbps)、無線LAN(計30箇所)、学外接続ネットワーク(1Gbps)

●ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー

【設備等】
●新リサイクル技術・評価システム：粒子径・表面電位解析装置、イオンクロマトグラフ、形状測定マイクロスコープ、走査型プローブ顕微鏡、ICP発光分光分析装置、示差熱天秤、ディスク型手動粉砕器、ロール型磁選機、レーザーデータ電位計、エリーズ非鉄金属選別器、真空アーク溶解炉など
●高度機能素材設計・評価システム：多層構造膜作製装置、多元合金膜作製装置、走査電子顕微鏡、高真空型走査プローブ顕微鏡、高感度磁化測定装置、高真空熱処理装置、薄膜X線回折装置、粉末X線回折装置、磁気記憶装置材料分析・評価システムなど

●バイオサイエンス教育・研究センター

【設備等】
●動物実験部門：【小動物部門】SPF飼育室(16室)、クリーン飼育室(9室)、実験室(4室)【中・大動物部門】SPF飼育室(1室)、クリーン飼育室(5室)、実験室(4室)、X線室など　【特殊実験部門】感染動物実験室、ケミカルハザード実験室、ブタ内視鏡訓練室など
●放射性同位元素部門：【管理用設備】放射線管理総合システム・サーベイメーター各種【実験用設備】遠心機各種、GeneAmp PCR System 2台など　【測定用設備】液体シンチレーションカウンター2台など　【遺伝子組換実験設備】旋回培養器、高速冷却遠心機など
●分子医学部門：透過型電子顕微鏡、分光光度計類、遺伝子導入装置、DNAシークェンサー、DNA増幅装置、フローサイトメータ、共焦点レーザー顕微鏡など
●教育研究連携部門　●福祉医療工学部門

●放射性同位元素センター

【設備等】
●非密封線源実験エリア：−10℃及び4℃低温実験室：オークリッジフード3基及び安全キャビネット1基、液体シンチレーションカウンター、トリチウムガス計測・実験装置、各種スケーラー、サーベイメーター、プレートアナライザー
●密封線源実験エリア：マルチチャンネルγ線スペクトルメーター、高速液体クロマトグラフ質量分析装置、イメージアナライザー、水平型X線回折装置

16種類の非密封線源及び5種類の密封線源が使用可能

●環境安全センター

【設備等】
●廃液処理棟：無機系廃液－フェライト化処理、有機系廃液／有害固形廃棄物－噴霧燃焼／焼却処理、水銀・シアン系廃液－酸化分解・吸着処理、フッ素・リン酸系廃液－石灰化処理、COD廃液－フェントン処理
●実験・分析棟：ガスクロマトグラフ／質量分析計、ガスクロマトグラフ、原子吸光光度計、液体クロマトグラフ、X線分析装置、その他必要機器

●ベンチャーインキュベーションセンター

【設備等】(センター内設置の秋田産学官共同研究拠点センター導入機器)
超純水製造装置、ドラフトチャンバー、マイクロウェーブ試料前処理システム、超高分解能電界放射型走査型電子顕微鏡、炭素・水素・窒素・硫黄・酸素全自動分析装置、フレーム/ファーネス高分解能連続光源原子吸光分析装置、元素分析装置、高分解能核磁気共鳴スペクトル装置(600MHz)、X線光電子分光分析装置、マイクロフォーカスX線CT透視装置、水銀ポロシメータ、超高速液体クロマトグラフシステム、光散乱GPC分子量測定装置、テラヘルツ分光測定装置、バイポーラ電源、活性汚泥処理装置、スプレードライヤ装置、比表面積・細孔径分布測定装置、触媒分析装置(ガス導入口7ライン)、リアルタイムPCRシステム、マルチラベルカウンター、回転式粘度計(Lアダプタ付)、四重極-飛行時間型MS/MS分析システム、ガス吸着量測定装置、モジュール式電気化学測定システム、共焦点レーザ走査型顕微鏡、マトリックス支援レーザ脱離イオン化法飛行時間型質量分析装置、バイオクリーンベンチ

●産学連携推進機構

【設置目的等】
民間等外部の機関との共同研究を推進することにより、秋田大学の教育・研究の進展を図るとともに、研究成果の知的財産化及び知的財産の社会還元を促進し、社会における技術開発の振興及び技術発展に寄与する。

●国際資源学教育研究センター

【設置目的等】
国際的視野を持つ高度資源開発人材の養成と我国の資源セキュリティ及び安定供給体制の確立に貢献するとともに、国際資源人材ネットワークを通して一層の国際交流及び国際貢献を図る。

●地域創生センター

【設置目的等】
地域再生のための知の創生の見地から、地域と連携し、地域の活性化、教育活動、住民活動への助言を行うとともに、地域から学ぶことで地域を担う人材育成の一助となることを目指し、地域の発展に寄与する。

センター　Center for Education and Research

	設置目的等
評価センター	● 秋田大学における自己点検・評価活動とその改善努力の支援 ● 評価とそのシステムについての研究・開発
教育推進総合センター	● 教養基礎教育を中心とする教育体制の構築と教育活動の推進 ● 教養基礎教育及び専門教育の調査・研究・開発による改善・充実
学生支援総合センター	● 種々の生活相談及び授業料免除や奨学金交付推薦等の生活支援 ● 大学祭等の課外活動支援及び課外活動施設の整備・充実の推進 ● 就職ガイダンスの実施及び就職情報提供等の就職活動支援
教員免許状更新講習推進センター	● 教員免許状更新講習の企画・実施 ● 県内の教育委員会、大学等諸機関との連携
国際交流センター	● 国際交流に関する企画・広報活動 ● 国際学術交流の推進 ● 国際教育交流の推進

技術組織　Technological Organization

	設置目的等
総合技術部	● 教育研究活動の技術支援を全学的に推進 ● 技術系職員が持つ専門技術を本学の共通の財産として継承・発展させ、その能力及び資質等の向上を図るとともに優れた人材を確保

福利厚生施設等

Welfare Facilities

施　設	主な設備内容
保健管理センター	学生相談室、休養室、診察室、処置室、エックス線室、聴力検査室、心電図室、カウンセリング室、検査室、所長室、准教授室、事務室、器材室
大学会館(クレール)〈手形キャンパス〉	●1階／管理事務室、食堂、厨房、喫茶室、食品・弁当コーナー、アメニティーコーナー、アルバイトセンター ●2階／研修室(1・2・3)、和室(あじさい・りんどう)、会議室、書籍・文具・旅行コーナー
本道会館(メディココ)〈本道キャンパス〉	●1階／食堂、厨房、売店、事務室、倉庫 ●2階／研修室、談話室、大会議室、小会議室、和室、物品庫
学　生　寮	
国際交流会館	●居　　室／単身室(外国人留学生用28室、外国人研究者室5室)、家族室(外国人研究者用2室)、夫婦室(外国人研究者用3室) ●管理関係／管理室、設備室、倉庫 ●共用関係／多目的ホール、ミーティングルーム、洗濯室
留学生会館	●居室／単身室(27室)、夫婦室(3室) ●管理関係／事務室、機械室、倉庫 ●共用関係／談話室、和室、洗濯室
乳頭ロッジ	●食堂・研修室　●浴室(男・女) ●宿泊室／和室3・洋室2(30人収容)

区　分	手形寮〈女子〉(留学生除く)	本道寮〈女子〉(留学生除く)	西谷地寮〈男子〉(留学生含む)
建物延面積	745㎡	1,121㎡	3,170㎡
室　数	40室	31室	130室
収容定員	40人	31人	130人

手形キャンパス内の大学会館(クレール)

西谷地寮

国際交流会館

留学生会館

体育施設

Sports Facilities

施　設	面　積(㎡) 手形地区	本道地区	保戸野地区	備　考
陸上競技場	24,637	20,909	―	400m／6コース、メイン／8コース
野球場	20,378		―	―
球技場	陸上競技場と併用、人工芝	陸上競技場と併用	―	サッカー、ラグビー(本道地区はサッカー、ラグビー、アーチェリー、準硬式野球)
ハンドボール場		―	―	―
大体育館	2,591	1,079	3,588	バスケットボール、バレーボール、バドミントン、柔道、剣道　等(本道地区はバレーボール、バドミントン、バスケットボール、卓球、フットサル)
小体育館	650	―	―	体操、卓球、空手道　等
柔剣道場(武道場)	―	―	373	柔道、剣道
弓道場	149	―	―	的場(44㎡)は含まない
テニスコート	(5面)3,238	(5面)3,614	―	―
プール(25m)	800	―	―	―
運動場	―	―	14,923	―

陸上競技場(手形地区)

体育館(手形地区)

東京サテライト

Tokyo Satellite

受験生への情報提供を行うとともに、産学官連携の推進や首都圏での社会貢献活動を行うための拠点として「秋田大学東京サテライト」を設置しています。

〈業務紹介〉

1. 受験生への情報提供
- 入試説明会、各学校への情報の提供、訪問活動

2. 産学官連携活動の支援
- 共同研究、科学技術相談の窓口
- 学術情報、技術シーズの提供
- シンポジウム、学会、研究会などの学術会議の開催
- 研究者、研究成果の紹介

3. 社会貢献活動の支援
- 講演会、セミナーなどの開催

4. 就職活動の支援
- 企業からの求人の申込
- 在学生への就職情報の提供

5. 同窓会活動の支援
- 同窓会への大学情報などの提供

●**所在地**　〒108-0023 東京都港区芝浦3-3-6
東京工業大学キャンパス・イノベーションセンター 606号室
●**TEL** 03-5440-9104(FAX兼用)
●**ホームページ**　http://www.akita-u.ac.jp/honbu/satellite/

キャンパス・イノベーションセンター

横手分校・北秋田分校・男鹿なまはげ分校

秋田大学の県内への情報発信と、より密接な地域連携を目指して、横手市、北秋田市、男鹿市へそれぞれ分校を開設しています。

横手分校
〈平成21年8月5日開設〉

- 学生による「いぶりがっこ」の製造をはじめとする地域活動への学生参加など地域課題の解決に向けた取り組みを実施しています。
- 教師を目指す学生たちを対象とした「教育ミニミニ実習」などの小中高大連携事業を推進しています。

●**連絡先**
〒013-0036 横手市駅前町1-21
横手市交流センター Y²ぷらざ内
●**TEL** 0182-38-8304
●**FAX** 0182-32-4056

北秋田分校
〈平成22年11月17日開設〉

- 教員の養成研修、出前授業などの教員派遣事業を実施しています。
- 珪藻土等の地域資源を活用して、小中高生の児童生徒への教育支援に取り組んでいます。

●**連絡先**
〒018-3392 北秋田市花園町19-1
北秋田市役所総務部総務課総務班
●**TEL** 0186-62-1111
●**FAX** 0186-63-2586

男鹿なまはげ分校
〈平成25年9月30日開設〉

- 学生力を活用し、子どもたちへの自学自習支援や医学部訪問事業を行い、学力の底上げに取り組んでいます。
- 首都圏大学の文化系・体育系クラブの宿泊合宿誘致を通じ、交流人口増加による地域活性化に取り組んでいます。

●**連絡先**
〒010-0595 男鹿市船川港船川字泉台66-1
男鹿市総務企画部 企画政策課
●**TEL** 0185-24-9126
●**FAX** 0185-23-2424

インフォメーションセンター　Information Center

秋田大学の教育・研究の取り組みや、常設展示として成田為三・南木佳士など著名な卒業生の業績や作品等を展示・紹介。また、学生や教職員による企画展・コンサート等も開催しています。

〈入館案内〉

●開館時間／10:30〜17:00
●開 館 日／平日のみ（入館無料）

インフォメーションセンター外観

オープンスペースの様子

〈主な常設展示〉

●卒業生紹介

成田（なりた） 為三（ためぞう）

秋田県師範学校（教育文化学部の前身）出身で、「浜辺の歌」「秋田県民歌」など、300曲以上の優れた作品を世に残しています。本格的に作曲の勉強をしたのは、秋田県師範学校時代であることが研究により明らかにされています。

南木（なぎ） 佳士（けいし）

秋田大学医学部の第二期生である彼は、長野県佐久総合病院で医師を続けながら、作家活動を行っています。作品には、新設間もない秋田大学医学部を舞台に、医学部在学の4人の主人公が抱える悩みや葛藤などの青春群像を描いた「医学生」や、第100回芥川賞を受賞した「ダイヤモンドダスト」等があります。

●秋田大学3D化プロジェクト

附属ものづくり創造工学センターの「学生自主プロジェクト」で学生が作成したプログラム。コントローラを操作することによって、仮想空間のキャンパスを自由に散策することができます。

〈主な企画展・コンサート〉

「幼稚園教育のあゆみ展」

「秋大憩いのコンサート」

平成26年度 主な課外行事

Main Extracurricular Events（Academic Year of 2013）

第49回今日歩大会　5月24日（土）・25日（日）

男鹿半島の寒風山を午後9時に出発して、大学まで約40キロの道のりを走（踏）破するもので、例年学生・教職員および一般市民500人ほどが参加して行われる本学の名物行事です。

第65回東北地区大学体育大会

5月～11月

東北地区の国・公・私立の46大学による体育大会で、各県分担し、男女合わせて26種目の競技が行われます。

サークルリーダー研修会　9月下旬

課外活動団体のリーダーを中心に日々の活動に必要な知識やAED（自動体外式除細動器）の取扱い方法を修得させるとともに、参加者相互の交流や討論を深めるため、毎年実施しています。

大　学　祭　10月18日（土）・19日（日）

各学部間の交流、また学生と教職員や一般市民との交流を深めることを目的として毎年実施し、学内外を問わず親しまれている行事です。

全学駅伝競走大会　11月1日（土）

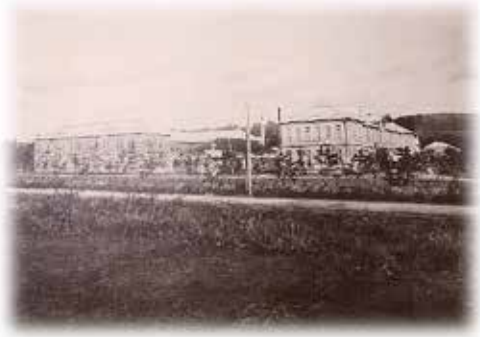
学生同士や、学生と教職員との交流を深め、スポーツマン精神を養うことを目的に、例年男女合わせて30チームほどが健脚を競っています。応援を含めて全学が熱狂する行事です。

資料編

○沿革
○歴代学長
○運営組織
○教育研究組織
○事務組織
○役職員
○学生の定員・現員
○入学志願者・入学状況
○出身高校所在地別在学状況
○卒業者・修了者数
○学位授与数
○卒業者等就職状況
○平成25年度学生表彰等受賞者
○外国人留学生数
○外国人研究員等
○国際交流協定校
○公開講座（平成25年度）
○国内機関との連携・協力協定
○役員数
○教職員数
○平成26年度予算
○外部資金受入状況
○平成26年度科学研究費助成事業採択状況
○土地・建物
○各連絡先・所在地一覧
○手形地区施設配置図
○本道地区施設配置図／保戸野地区施設配置図
○アクセス

沿革

Historical Sketch



明治6年(1873)9月
秋田伝習学校

明治7年(1874)5月
秋田太平学校

明治11年(1878)4月
秋田県師範学校

明治11年(1878)12月
秋田師範学校

明治13年(1880)5月
秋田女子師範学校

明治19年(1886)8月
秋田県尋常師範学校

明治31年(1898)4月
秋田県師範学校

明治42年(1909)4月
秋田県女子師範学校

昭和18年(1943)4月
秋田師範学校(官立)

明治43年(1910)3月
秋田鉱山専門学校(官立)

昭和19年(1944)4月
秋田青年師範学校(官立)

昭和10年(1935)4月
秋田県立青年学校
教員養成所

大正13年(1924)3月
秋田県立実業補習学校
教員養成所

●百周年記念館(平成24年10月竣工)

工学資源学部創立100周年を記念し建造
秋田大学の前身である秋田鉱山専門学校の外観を再現

昭和　平成

20年代　40年代　50年代　60年代　元年　2年　3年　4年　6年　8年　10年　11年　12年　14年　16年　18年　19年　20年　21年　22年　23年　24年　25年　26年

昭和24年(1949)5月
秋田大学設置

平成11年(1999)
50周年

平成16年(2004)4月
国立大学法人

平成21年(2009)
60周年

大学院

昭和40年(1965)4月
鉱山学研究科(修士課程)

昭和51年(1976)4月
医学研究科

平成元年(1989)4月
教育学研究科(修士課程)

平成6年(1994)4月
鉱山学研究科(博士課程)

平成14年(2002)4月
改組・工学資源学研究科

平成19年(2007)4月
医学系研究科

教育学研究科
医学系研究科
工学資源学研究科

学芸学部

昭和24年(1949)5月

小学校教員養成課程
中学校教員養成課程

昭和42年(1967)6月
改称・教育学部

昭和43年(1968)4月
養護学校教員養成課程

昭和48年(1973)4月
幼稚園教員養成課程

平成3年(1991)4月
情報科学課程

昭和26年(1951)4月
附属幼稚園
附属小学校
附属中学校

昭和47年(1972)4月
附属養護学校

昭和52年(1977)4月
附属教育工学センター

平成4年(1992)4月
改組・附属教育実践研究指導センター

平成10年(1998)4月
改組・教育文化学部

学校教育課程
地域科学課程
国際言語文化課程
人間環境課程

附属幼稚園
附属小学校
附属中学校
附属養護学校
附属教育実践研究指導センター

平成12年(2000)4月
改組・附属教育実践総合センター

平成19年(2007)4月
改称・附属特別支援学校

教育文化学部

学校教育課程
地域科学課程
国際言語文化課程
人間環境課程

附属幼稚園
附属小学校
附属中学校
附属特別支援学校

平成22年(2010)4月
改称・附属教育実践研究支援センター

医学部

昭和45年(1970)4月
医学科

昭和46年(1971)4月
附属病院

昭和47年(1972)4月
附属看護学校

平成4年(1992)3月廃止

昭和56年(1981)4月
附属動物実験施設

平成16年(2004)3月廃止

昭和57年(1982)4月
附属実験実習機器センター

平成16年(2004)3月廃止

平成14年(2002)10月
設置・保健学科

医学部

医学科
保健学科

附属病院

鉱山学部

昭和24年(1949)5月

鉱山学科

昭和35年(1960)4月
採鉱学科
鉱山地質学科

冶金燃料学科

昭和30年(1955)4月
冶金学科
燃料学科

昭和42年(1967)4月
金属材料学科

昭和56年(1981)4月
資源化学工学科

平成2年(1990)4月
改組
資源・素材工学科
物質工学科
情報工学科

鉱山電気学科

昭和34年(1959)4月
鉱山機械学科
鉱山電気学科

昭和39年(1964)4月
機械工学科
電気工学科

昭和48年(1973)4月
電子工学科

昭和41年(1966)4月
鉱山土木学科

昭和45年(1970)4月
土木工学科

昭和52年(1977)4月
生産機械工学科

平成3年(1991)4月
改組
機械工学科
電気電子工学科
土木環境工学科

昭和40年(1965)4月
附属鉱業博物館

昭和25年(1950)4月
附属地下資源開発研究所

昭和42年(1967)4月
改称・附属地下資源研究施設

昭和61年(1986)4月
改組・附属資源地学研究施設

平成8年(1996)5月
改組・附属素材資源システム研究施設

昭和24年(1949)
通信教育講座

平成10年(1998)4月
改組・工学資源学部

地球資源学科
環境物質工学科
材料工学科
情報工学科
機械工学科
電気電子工学科
土木環境工学科

平成20年(2008)4月
環境応用化学科
生命化学科

附属鉱業博物館

附属素材資源システム研究施設

平成18年(2006)4月
改組・附属環境資源学研究センター

平成16年(2004)7月
附属ものづくり創造工学センター

平成18年(2004)1月
附属地域防災力研究センター

通信教育講座

工学資源学部

地球資源学科
環境応用化学科
生命化学科
材料工学科
情報工学科
機械工学科
電気電子工学科
土木環境工学科

附属鉱業博物館

附属環境資源学研究センター

附属ものづくり創造工学センター

附属地域防災力研究センター

通信教育講座

平成26年(2014)4月1日
新設・国際資源学部、改組・教育文化学部、理工学部

国際資源学部

際資源学科

附属鉱業博物館

教育文化学部

学校教育課程
地域文化学科

附属幼稚園
附属小学校
附属中学校
附属特別支援学校
附属教育実践研究支援センター

医学部

医学科
保健学科

附属病院

理工学部

生命科学科
物質科学科
数理・電気電子情報学科
システムデザイン工学科

附属理工学研究センター
附属ものづくり創造工学センター
附属地域防災力研究センター
通信教育講座

医療技術短期大学部

〈平成元年(1989)4月～平成19年(2007)3月〉

●理学療法学科・作業療法学科〈平成2年(1990)4月分離増設〉
【看護学科〈平成元年(1989)10月〉】

専攻科

●鉱山学専攻科〈昭和29年(1954)4月～昭和40年(1965)3月〉
●教育専攻科〈昭和40年(1965)4月～平成元年(1989)3月〉
●特殊教育特別専攻科〈昭和55年(1980)4月～平成20年(2008)3月〉

学内共同教育研究施設

●産学連携推進機構〈平成19年(2007)11月〉
【知的財産本部〈平成16年(2004)4月〉＋地域共同研究センター〈平成5年(1993)4月〉】
●総合情報処理センター〈平成15年(2003)4月〉【情報処理センター〈昭和64年(1989)1月〉】
●ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー〈平成15年(2003)4月〉
【サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー〈平成13年(2001)5月〉】
●バイオサイエンス教育・研究センター〈平成16年(2004)4月〉　●放射性同位元素センター〈昭和47年(1974)6月〉
●環境安全センター〈平成16年(2004)4月〉　●国際資源学教育研究センター〈平成21年(2009)10月〉
●ベンチャーインキュベーションセンター〈平成22年(2010)4月〉
●地域創生センター〈平成23年(2011)4月〉　●生体情報研究センター〈平成24年(2012)4月〉

センター

●評価センター〈平成16年(2004)4月〉
●教育推進総合センター〈平成16年(2004)4月〉
●教員免許状更新講習推進センター〈平成21(2009)4月〉
●学生支援総合センター〈平成16年(2004)4月〉
●国際交流センター〈平成20年(2008)2月〉
【国際交流推進機構〈平成16年(2004)4月〉】
※社会貢献推進機構
〈平成16年(2004)4月～平成21年(2009)3月〉

●附属図書館
〈昭和24年(1949)5月〉
●保健管理センター
〈昭和49年(1974)4月〉

歴代学長

佐野 秀之助
（昭25.5.6～昭30.12.24）

渡邊 萬次郎
（昭31.3.1～昭41.2.28）

伊藤 泰一
（昭41.3.1～昭44.6.9）

渡邊 武男
（昭46.2.23～昭51.2.22）

九嶋 勝司
（昭51.2.23～昭56.2.22）

梅津 良之
（昭56.2.23～昭61.2.22）

渡部 美種
（昭61.2.23～平3.2.22）

新野 直吉
（平3.2.23～平8.2.22）

徳田 弘
（平8.2.23～平13.2.22）

三浦 亮
（平13.2.23～平20.3.31）

吉村 昇
（平20.4.1～平26.3.31）

澤田 賢一
（平26.4.1～）

事務取扱

劒木 亨弘	池田 謙三	五十嵐 勇	藤島 主殿
（昭24. 5.31～昭24. 7.30）	（昭24. 7.31～昭25. 5. 5）	（昭30.12.25～昭31.2.29）	（昭44.6.10～昭46.2.22）

運営組織

Management Organization

監　事
（2人）
〈うち、非常勤1人〉
Auditors

経営協議会
（12人）
Management Committee

経営に関する重要事項を審議

- 学長
- 理事（総務担当）
- 理事（財務・施設・環境担当）
- 理事（経営担当）〈非常勤〉
- 医学部附属病院長
- 副学長（評価担当）
- 学外委員（6人）

役　員　会
（6人）
Board of Directors

経営、教学の両面にわたり、
特定の重要事項について、
学長の意思決定に先立ち議決

- 学長
- 理事（総務担当）
- 理事（研究・国際・産学連携・情報担当）
- 理事（教育・学生・入試担当）
- 理事（財務・施設・環境担当）
- 理事（経営担当）〈非常勤〉

教育研究評議会
（21人）
Education and Research Council

教育研究に関する重要事項を審議

- 学長
- 理事（総務担当）
- 理事（研究・国際・産学連携・情報担当）
- 理事（教育・学生・入試担当）
- 副学長（評価担当）
- 国際資源学部長
- 教育文化学部長
- 医学系研究科長
- 工学資源学研究科長
- 附属図書館長
- 医学部附属病院長
- 産学連携推進機構長
- 総合情報処理センター長
- 教育推進主管
- 各学部長等が推薦する当該学部等の教授

学長選考会議
（12人）
President Nomination Committee

- 経営協議会の学外委員で、経営協議会において選出された者（5人）
- 国際資源学部長／教育文化学部長／医学系研究科長／工学資源学研究科長／副学長（評価担当）
- 理事（総務担当）／理事（財務・施設・環境担当）

大学運営会議
（12人）

- 学　長
- 理事（総務担当）／理事（研究・国際・産学連携・情報担当）／理事（教育・学生・入試担当）／理事（財務・施設・環境担当）
- 副学長（評価担当）
- 国際資源学部長／教育文化学部長／医学系研究科長／工学資源学研究科長／附属図書館長／医学部附属病院長

教育研究組織

Academic Organization

秋田大学 Akita University

- 学部 Faculties
  - 国際資源学部 Faculty of International Resource Sciences
    - 国際資源学科 — Department of International Resource Sciences
    - 附属鉱業博物館 — Mineral Industry Museum
  - 教育文化学部 Faculty of Education and Human Studies
    - 学校教育課程 — Department of School Education
    - 地域文化学科 — Departmen of Regional Studies and Humanities
    - 附属幼稚園 — Kindergarten
    - 附属小学校 — Elementary School
    - 附属中学校 — Junior High School
    - 附属特別支援学校 — Special School for Mentally Retarded Children
    - 附属教育実践研究支援センター — Center for Educational Research and Practice
  - 医学部 Faculty of Medicine
    - 医学科 — School of Medicine
    - 保健学科 — School of Health Sciences
    - 附属病院 — University Hospital
  - 理工学部 Faculty of Engineering Science
    - 生命科学科 — Department of Life Science
    - 物質科学科 — Department of Materials Science
    - 数理・電気電子情報学科 — Department of Mathematical Science and Electronic-Computer Engineering
    - システムデザイン工学科 — Department of Systems Design Engineering
    - 通信教育講座 — Correspondence Education Program
- 大学院 Graduate Schools
  - 教育学研究科 Graduate School of Education
    - 修士課程 Master's Degree Program
      - 学校教育専攻 — School Education
      - 教科教育専攻 — Major Subjects Education
  - 医学系研究科 Graduate School of Medicine
    - 修士課程 Master's Degree Program
      - 医科学専攻 — Medical Sciences
    - 博士前期課程 Master's Degree Program
      - 保健学専攻 — Health Sciences
    - 博士後期課程 Doctor's Degree Program
      - 保健学専攻 — Health Sciences
    - 博士課程 Doctor's Degree Program
      - 医学専攻 — Medicine
  - 工学資源学研究科 Graduate School of Engineering and Resource Science
    - 博士前期課程 Master's Degree Program
      - 地球資源学専攻 — Department of Earth Science and Technology
      - 環境応用化学専攻 — Department of Applied Chemistry
      - 生命科学専攻 — Department of Life Science
      - 材料工学専攻 — Department of Materials Science and Engineering
      - 情報工学専攻 — Department of Computer Science and Engineering
      - 機械工学専攻 — Department of Mechanical Engineering
      - 電気電子工学専攻 — Department of Electrical and Electronic Engineering
      - 土木環境工学専攻 — Department of Civil and Environmental Engineering
      - 共同ライフサイクルデザイン工学専攻 — Cooperative Major in Life Cycle Design Engineering
    - 博士後期課程 Doctor's Degree Program
      - 資源学専攻 — Department of Geosciences,Geotechnology, and Materials Engineering for Resources
      - 生命科学専攻 — Department of Life Science
      - 機能物質工学専攻 — Department of Advanced Materials Engineering
      - 生産・建設工学専攻 — Department of Production and Civil Engineering
      - 電気電子情報システム工学専攻 — Department of Electrical,Electronic and Computer Systems Engineering
    - 附属理工学研究センター — Research Center for Engineering Science
    - 附属ものづくり創造工学センター — Innovation Center for Engineering Design and Manufacturing
    - 附属地域防災力研究センター — Research Center for Potential Development of Disaster Prevention
- 学内共同教育研究施設 University Common Use Facilities for Education and Research
  - 産学連携推進機構 — Cooperative Research Center
  - 総合情報処理センター — General Information Processing Center
  - ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー — Venture Business Laboratory (VBL)
  - バイオサイエンス教育・研究センター — Bioscience Education and Research Center (BERC)
  - 放射性同位元素センター — Radioisotope Research Center
  - 環境安全センター — Environmental Research Center
  - 国際資源学教育研究センター — International Center for Research and Education on Mineral and Energy Resources
  - ベンチャーインキュベーションセンター — Venture Incubation Center (AU-VIC)
  - 地域創生センター — Center for Regional Development
  - 生体情報研究センター — Research Center for Biosignal
- センター Center for Education and Research
  - 評価センター — Center for Evaluation
  - 教育推進総合センター — Center for Promotion of Educational Reseach and Affairs
  - 学生支援総合センター — Student Support Center
  - 教員免許状更新講習推進センター — Center for Teaching License Extension
  - 国際交流センター — International Exchange Center
- 附属図書館 University Library
  - 中央図書館 — Central Library
  - 医学図書館 — Medical Library
- 保健管理センター University Health Center

事務組織

Administrative Organization

役職員

Administrative Staff

平成26年7月10日現在

役員等

学長	澤田　賢一
理事(総務担当)・総括副学長	小川　信明
理事(研究・国際・産学連携・情報担当)・副学長	山本　文雄
理事(教育・学生・入試担当)・副学長	四反田　素幸
理事(財務・施設・環境担当)	渡部　良和
理事(経営担当)(非常勤)	吉岡　尚文
監事	長谷部　勝
監事(非常勤)	大橋　隆
副学長(評価担当)	西田　眞

学長補佐

学長補佐(ハラスメント担当)	中村　雅英
学長補佐(男女共同参画担当)	渡部　育子
学長補佐(知的財産・医工連携担当)	南谷　佳弘
学長補佐(研究支援・地域協働担当)	渋谷　嗣
学長補佐(地域創生担当)	川東　雅樹
学長補佐(国際交流担当)	今井　亮
学長補佐(国際交流担当)	長谷川　章

経営協議会

学長	澤田　賢一
理事(総務担当)・総括副学長	小川　信明
理事(財務・施設・環境担当)	渡部　良和
理事(経営担当)(非常勤)	吉岡　尚文
医学部附属病院長	羽渕　友則
副学長(評価担当)	西田　眞
秋田魁新報社代表取締役社長	小笠原　直樹
秋田県医師会会長	小山田　雍
東京国立博物館館長	銭谷　眞美
秋田銀行相談役	藤原　清悦
秋田県教育委員会教育長	米田　進
東北大学名誉教授	吉本　高志

教育研究評議会

学長	澤田　賢一
理事(総務担当)・総括副学長	小川　信明
理事(研究・国際・産学連携・情報担当)・副学長	山本　文雄
理事(教育・学生・入試担当)・副学長	四反田　素幸
副学長(評価担当)	西田　眞
国際資源学部長	佐藤　時幸
教育文化学部長	武田　篤
医学系研究科長	伊藤　宏
工学資源学研究科長	村岡　幹夫
附属図書館長	清水　徹男
医学部附属病院長	羽渕　友則
産学連携推進機構長	齊藤　準
総合情報処理センター長	今野　和彦
教育推進主管	長谷川　仁志
国際資源学部教授	宮本　律子
教育文化学部教授	佐藤　修司
教育文化学部教授	志立　正知
医学系研究科教授	尾野　恭一
医学系研究科教授	大友　和夫
工学資源学研究科教授	鈴木　雅史
工学資源学研究科教授	山村　明弘

大学戦略室

室長	小川　信明
室長補佐	髙橋　康弘

本部等

副理事(総務担当)	渡部　博靖
副理事(国際担当)(兼)国際課長(兼)危機管理調整役	髙橋　康弘
副理事(財務・施設・環境担当)	大宮　一弘
副理事(教育・学生・入試担当)(兼)学生支援課長	今野　悟
監査室長	榎　清幸
総務企画課長	柳橋　雪男

本部等

人事課長(兼)能力開発室長	大山　弘
広報課長	藤井　和明
学術研究課長	大山　弘正
図書館・情報推進課長	森谷　めぐみ
教育推進課長	山内　敏博
就職推進課長	中井　正宏
入試課長	阿部　好子
地域創生課長	高橋　紀夫
財務課長	木村　誠
経理・調達課長	戸島　隆造
施設企画課長	佐々木　務
施設保全課長	佐々木　盛

センター・機構等

産学連携推進機構長	齊藤　準
総合情報処理センター長	今野　和彦
ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー長	柴山　敦
バイオサイエンス教育・研究センター長	尾野　恭一
放射性同位元素センター長	後藤　猛
環境安全センター長	村田　勝敬
国際資源学教育研究センター長	安達　毅
ベンチャーインキュベーションセンター長	山本　文雄
地域創生センター長	川東　雅樹
生体情報研究センター長	佐々木　雄彦
評価センター長	西田　眞
教育推進総合センター長	四反田　素幸
学生支援総合センター長	四反田　素幸
教員免許状更新講習推進センター長	井門　正美
国際交流センター長	山本　文雄
保健管理センター所長	苗村　育郎
教育推進主管	長谷川　仁志

附属図書館

館長	清水　徹男
医学部分館長	田中　正光
館長補佐	麻生　節夫
館長補佐	大場　司
館長補佐	阿部　昇

国際資源学部

学部長(兼)附属鉱業博物館長	佐藤　時幸
事務長	大川　卓男

教育文化学部

学部長	武田　篤
事務長	工藤　工
附属教育実践研究支援センター長	神居　隆
附属幼稚園長	佐々木　雅子
附属小学校長	林　信太郎
附属中学校長	佐々木　和貴
附属特別支援学校長	内海　淳

医学系研究科

研究科長	伊藤　宏
附属病院長	羽渕　友則
事務部長	小玉　功
総務課長	坂本　泰敏
企画管理課長	阿部　幸治
調達課長	太田　貞祐
学務課長	藤原　孝
医事課長	針金　誠悦

工学資源学研究科

研究科長	村岡　幹夫
事務長	高橋　正樹
附属理工学研究センター長	齊藤　準
附属ものづくり創造工学センター長	神谷　修
附属地域防災力研究センター長	松冨　英夫

学生の定員・現員

〈学　部〉

平成26年5月1日現在

学部	学科・課程	入学定員	収容定員	現員 1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	計
国際資源学部	国際資源学科	120	120	127						127
	小　計	120	120	127						127
教育文化学部	学校教育課程	110	410	116	105	121	107			449
	地域文化学科	100	100	103						103
	地域科学課程	※1	195		66	69	72			207
	国際言語文化課程		195		67	76	80			223
	人間環境課程		180		62	67	68			197
	小　計	210	1,080	219	300	333	327			1,179
医学部	医学科	〈5〉122	734	123	128	125	132	122	104	734
	保健学科	(14)106	452	118	103	117	108			446
	小　計	〈5〉(14)228	1,186	241	231	242	240	122	104	1,180
理工学部	生命科学科	45	45	44						44
	物質科学科	110	110	115						115
	数理・電気電子情報学科	120	120	134						134
	システムデザイン工学科	120	120	134						134
	小　計	395	395	427						427
工学資源学部	地球資源学科	※2	180	3	71	61	56			191
	環境物質工学科	※1								
	環境応用化学科	※2	165	4	60	62	65			191
	生命化学科		96	3	29	36	31			99
	材料工学科		180	2	67	61	80			210
	情報工学科		150	2	58	66	63			189
	機械工学科		231	4	87	98	83			272
	電気電子工学科		225	2	82	96	79			259
	土木環境工学科		153	3	56	68	51			178
	各学科共通	12	24							
	小　計	(12)	1,404	23	510	548	508			1,589
合　計		〈5〉(26)953	4,185	1,037	1,041	1,123	1,075	122	104	4,502

【注】
※1：平成26年度から学生募集停止

【注】
※1：平成20年度から学生募集停止
※2：平成26年度から学生募集停止

※(　)内の数は3年次編入学定員を表し、外数である。　※〈　〉内の数は2年次編入学定員を表し、外数である。

〈大学院〉

平成26年5月1日現在

研究科	専　攻	入学定員	収容定員	現員 修士課程 1年次	2年次		計
教育学研究科	学校教育専攻	13	26	10	11		21
	教科教育専攻	31	62	21	20		41
計		44	88	31	31		62

研究科	専　攻	入学定員	収容定員	現員 修士課程 1年次	2年次		計
医学系研究科	医科学専攻	5	10	3	0		3
	専　攻	入学定員	収容定員	博士前期課程 1年次	2年次		計
	保健学専攻	12	24	13	18		31
	専　攻	入学定員	収容定員	博士後期課程 1年次	2年次	3年次	計
	保健学専攻	3	9	3	3	7	13
	専　攻	入学定員	収容定員	博士課程 1年次	2年次	3年次	4年次	計
	医学専攻	30	120	42	32	27	69	170
医学研究科	専　攻	入学定員	収容定員	博士課程 1年次	2年次	3年次	4年次	計
	社会医学系専攻	※1						
	内科系専攻							
	外科系専攻							
計		50	163					217

【注】
※1：平成19年度から学生募集停止

研究科	専　攻	入学定員	収容定員	現員 博士前期課程 1年次	2年次		計
工学資源学研究科	地球資源学専攻	17	34	19	15		34
	環境物質工学専攻	※1			1		1
	環境応用化学専攻	20	40	23	11		34
	生命科学専攻	12	24	11	13		24
	材料工学専攻	23	46	27	22		49
	情報工学専攻	16	32	17	10		27
	機械工学専攻	26	52	33	21		54
	電気電子工学専攻	30	60	23	26		49
	土木環境工学専攻	11	22	6	5		11
	共同ライフサイクルデザイン工学専攻	12	24	9	6		15
	小　計	167	334	168	130		298
	専　攻	入学定員	収容定員	博士後期課程 1年次	2年次	3年次	計
	資源学専攻	4	12	9	2	7	18
	生命科学専攻	3	3	4			4
	機能物質工学専攻	3	11	1	2	3	6
	生産・建設工学専攻	3	11	2	1	6	9
	電気電子情報システム工学専攻	3	11	4	1	6	11
	小　計	16	48	20	6	22	48
計		183	382				346

【注】
※1：平成24年度から学生募集停止

合　計	277	633		625

入学志願者・入学状況

〈学　部〉

平成26年度

区　分	入学定員	志願者数			入学者数			志願倍率
		男	女	計	男	女	計	
国際資源学部	120	325	132	457	97	30	127	3.81
教育文化学部	210	359	511	870	100	118	218	4.14
医学部	228	607	636	1243	98	134	232	5.45
理工学部	395	1521	373	1894	353	64	417	4.79

※外国人留学生を含まない（但し、国際資源学部の私費外国人留学生は含む）。編入生を含まない。

〈大学院〉

平成26年度

区　分			入学定員	志願者数			入学者数			志願倍率
				男	女	計	男	女	計	
教育学研究科（修士課程）			44	25	20	45	17	14	31	1.02
医学系研究科	（修士課程）	医科学専攻	5	2	1	3	2	1	3	0.60
	（博士前期課程）	保健学専攻	12	5	8	13	5	8	13	1.08
	（博士後期課程）	保健学専攻	3	2	4	6	1	2	3	2.00
	（博士課程）	医学専攻	30	31	11	42	31	11	42	1.40
工学資源学研究科（博士前期課程）			167	174	29	203	131	28	159	1.22
工学資源学研究科（博士後期課程）			16	12	4	16	12	4	16	1.00

※国費外国人留学生、外国人留学生特別選抜を除く。

出身高校所在地別在学状況

〈学生総数（学部学生）〉

平成26年5月1日現在

		人数	%
北海道		115	2.7
東北 2,861 (65.8%)	青森	264	6.1
	岩手	404	9.3
	秋田	1,738	40.0
	宮城	196	4.5
	山形	167	3.8
	福島	92	2.1
関東		676	15.5
中部		567	13.0
近畿		69	1.6
中国		20	0.5
四国		14	0.3
九州		27	0.6
学生総数		4,349	

※学生総数は、国内の高校出身者の合計である。

〈医学部〉

平成26年5月1日現在

		人数	%
北海道		49	4.3
東北 659 (57.3%)	青森	39	3.4
	岩手	80	7.0
	秋田	434	37.7
	宮城	55	4.8
	山形	35	3.0
	福島	16	1.4
関東		289	25.1
中部		115	10.0
近畿		21	1.8
中国		4	0.3
四国		2	0.2
九州		11	1.0
計		1,150	

〈国際資源学部〉

平成26年5月1日現在

		人数	%
北海道		7	5.8
東北 61 (50.0%)	青森	6	4.9
	岩手	10	8.2
	秋田	31	25.4
	宮城	7	5.8
	山形	6	4.9
	福島	1	0.8
関東		27	22.1
中部		16	13.1
近畿		5	4.1
中国		3	2.5
四国		1	0.8
九州		2	1.6
計		122	

〈理工学部〉

平成26年5月1日現在

		人数	%
北海道		17	4.1
東北 255 (61.0%)	青森	44	10.5
	岩手	46	11.0
	秋田	121	29.0
	宮城	25	6.0
	山形	9	2.1
	福島	10	2.4
関東		52	12.5
中部		77	18.5
近畿		10	2.4
中国		2	0.5
四国		2	0.5
九州		2	0.5
計		417	

〈教育文化学部〉

平成26年5月1日現在

		人数	%
北海道		11	1.0
東北 971 (84.7%)	青森	40	3.5
	岩手	64	5.6
	秋田	723	63.0
	宮城	45	3.9
	山形	73	6.4
	福島	26	2.3
関東		84	7.3
中部		67	5.8
近畿		7	0.6
中国		5	0.4
四国		0	0.0
九州		2	0.2
計		1,147	

〈工学資源学部〉

平成26年5月1日現在

		人数	%
北海道		31	2.0
東北 915 (60.5%)	青森	135	8.9
	岩手	204	13.5
	秋田	429	28.4
	宮城	64	4.2
	山形	44	2.9
	福島	39	2.6
関東		224	14.8
中部		292	19.3
近畿		26	1.7
中国		6	0.4
四国		9	0.6
九州		10	0.7
計		1,513	

卒業者・修了者数

〈学部・大学院・専攻科〉

学部			大学院			専攻科	
区　分	25年度	累計	区　分	25年度	累計	区　分	累計
教育文化学部	309	3,854	教育学研究科	34	801	教育専攻科	78
教育学部		14,519				特殊教育特別専攻科	212
医学部	231	4,639	医学系研究科（修士課程）	0	57		
			医学系研究科（博士前期課程）	13	44		
			医学系研究科（博士後期課程）	3	10		
			医学系研究科（博士課程）	24	77		
			医学研究科	3	791		
工学資源学部	487	5,996	工学資源学研究科（博士前期課程）	145	1,567	鉱山学専攻科	58
			工学資源学研究科（博士後期課程）	10	98		
鉱山学部		14,522	鉱山学研究科（修士課程）		1,270		
			鉱山学研究科（博士前期課程）		1,012		
			鉱山学研究科（博士後期課程）		123		
計	1,027	43,530	計	232	5,850	計	348

【注】※鉱山学専攻科…昭和40年3月廃止　※教育専攻科…平成元年3月廃止　※鉱山学研究科（修士課程）…平成9年3月廃止
※教育学部…平成10年4月教育文化学部に改組・改称　※鉱山学部…平成10年4月工学資源学部に改組・改称
※鉱山学研究科…平成14年4月工学資源学研究科に改組・改称　※特殊教育特別専攻科…平成20年3月廃止
※医学研究科…平成19年4月医学系研究科に改組・改称

〈医療技術短期大学部〉

区　分	看護学科	理学療法学科	作業療法学科
累　計	1,015	246	254

【注】※医療技術短期大学部…平成19年3月廃止

学位授与数

平成26年5月1日現在

区　分		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	累計
教育学研究科	修士（教育学）	30	30	24	29	34	801
医学系研究科	修士（医科学）	3	4	4	4	0	20
	修士（看護学）	7	10	5	5	6	41
	修士（リハビリテーション科学）	7	6	7	5	7	40
	博士（保健学）（課程）			3	4	3	10
	博士（医学）（課程）	1	12	19	23	24	79
	博士（医学）（論文）	5	1	2	1	4	20
	小　計	23	33	40	42	44	210
医学研究科	博士（医学）（課程）	20	8	6	4	3	806
	博士（医学）（論文）	0	0	0	0	0	574
	小　計	20	8	6	4	3	1,380
工学資源学研究科	修士（工学）	120	142	168	159	134	1,538
	修士（資源学）	1	3	0	4	3	21
	修士（理学）					8	8
	博士（工学）（課程）	8	12	11	10	10	96
	博士（資源学）（課程）	0	0	1	0	0	2
	博士（工学）（論文）	2	1	0	0	2	10
	博士（資源学）（論文）	0	0	0	0	0	1
	小　計	131	158	180	173	157	1,676
鉱山学研究科	修士（工学）						2,252
	修士（資源学）						30
	博士（工学）（課程）						117
	博士（資源学）（課程）						6
	博士（工学）（論文）						31
	小　計						2,436
合　計		204	229	250	248	238	6,503

卒業者等就職状況

平成25年度（平成26年5月1日現在、中途卒を含む）

区分		卒業者数	進学者数	就職者数			産業別就職者数																														
																			学校教育																		
																			教員							教員以外	教育学習支援業	複合サービス業	サービス業	公務員			その他（公務員等再受験）	未就職者
				県内	県外		農林・水産業	鉱業	建設業	製造業	電気・ガス等	情報通信業	運輸・郵便業	卸・小売業	金融・保険業	不動産業	宿泊・飲食業	医療・福祉	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	高専・大学等	特別支援学校	教員の計					国家	地方	公務員の計		
学部	教育文化学部	309	15	261			—	—	8	7	—	13	7	27	13	—	7	11	3	23	31	14	—	15	86	4	6	2	21	9	40	49	23	10
				129	132																																
	医学部	231	5	222			—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	221	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	4	—
				114	108																																
	工学資源学部	485	169	271			1	5	45	70	2	23	18	13	6	—	3	1	—	—	—	1	—	—	1	1	1	2	23	11	45	56	38	7
				57	214																																
	小計	1025	189	754			1	5	53	77	2	36	25	40	19	—	10	233	3	23	31	15	—	15	87	5	7	4	44	20	86	106	65	17
				300	454																																
大学院	教育学研究科	34	—	30			—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5	—	3	4	8	—	6	21	—	1	—	1	—	2	2	4	—
				20	10																																
	医学系研究科	40	—	38			—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	34	—	—	—	—	3	—	3	1	—	—	—	—	—	—	2	—
				38	—																																
	医学研究科	3	—	3			—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
				3	—																																
	工学資源学研究科	155	10	139			—	9	15	75	6	7	5	2	—	1	—	—	—	—	—	—	5	—	5	1	—	—	10	—	3	3	4	2
				17	122																																
	小計	232	10	210			—	9	15	75	6	7	5	2	—	1	—	42	—	3	4	8	8	6	29	2	1	—	11	—	5	5	10	2
				78	132																																
合計		1257	199	964			1	14	68	152	8	43	30	42	19	1	10	275	3	26	35	23	8	21	116	7	8	4	55	20	91	111	75	19
				378	586																																

平成25年度学生表彰等受賞者

学生表彰被表彰者一覧〈学術研究活動〉

賞	氏　名	所　属	業　績　内　容
優秀賞（個人）	新澤 枝里子	医学部医学科 5年	第90回日本生理学会において食道上皮からのATP分泌の制御機構についての研究成果に関する一般演題の発表に対して「Junior Investigator's Award」を受賞した。
奨励賞（個人）	ジャムスレン エルデネバヤル	工学資源学研究科 博士後期課程 2年 資源学専攻	第3回 Asia Africa Mineral Resources Conference 2013において、Best Student Presentation Award（最優秀学生講演賞）を受賞した。
〃	岩 﨑　史 始	工学資源学研究科 博士前期課程 2年 生命科学専攻	・素材物性学国際会議（ICMR2013 AKITA）において、優秀論文賞を受賞した。 ・平成25年度化学系学協会東北大会及び日本化学会東北支部70周年記念国際会議において優秀ポスター賞を受賞した。

学生表彰被表彰者一覧〈課外活動関係〉

賞	氏名・団体名	所　属	大会名／種目／成績
奨励賞（団体）	男子ハンドボール部		平成25年度東北地区大学体育大会／優勝
〃	秋田大学混声合唱団A.Choir		第65回全日本合唱コンクール東北支部大会／金賞
〃	医学部女子ソフトテニス部		第56回東日本医科学生総合体育大会ソフトテニス競技 女子団体戦／優勝
〃	MedicA		第45回日本医学教育学会大会大学学生セッションⅠ（一般演題・ポスター）／優秀演題賞
奨励賞（個人）	板 垣　将 大	教育文化学部 学校教育課程 4年	平成25年度東北学生柔道体重別選手権大会 男子84kg級／優勝
〃	進 藤　恭 孝	教育文化学部 学校教育課程 4年	第42回東北学生陸上競技選手権大会 男子やり投げ／第1位
〃	菅 野　拓 矢	工学資源学部 地球資源学科 2年	第64回東北地区大学体育大会　水泳の部 男子400m個人メドレー／第1位
			第6回北部学生選手権水泳競技大会 男子400m個人メドレー／第1位
〃	丹　美紗紀	教育文化学部 地域科学課程 3年	第19回東北学生スキー技術選手権大会 本戦女子／第1位
〃	高 橋　凪	医学部 医学科 4年	第56回東日本医科学生総合体育大会卓球競技 女子シングルス／優勝

副学長表彰被表彰者一覧〈学術研究活動〉

賞	氏名・団体名	所　属	大会名／種目／成績
学術研究活動（個人）	川 上　咲 季	教育文化学部 学校教育課程 2年	第17回秋田県青少年音楽コンクール管・打楽器部門大学生・一般の部において金賞を受賞した。
〃	中 澤　唯	教育文化学部 学校教育課程 2年	第23回東北青少年音楽コンクール秋田地区予選で優秀賞を受賞し、同コンクール本選会においてNPOスペルビア賞を受賞した。
〃	髙 橋　達 軌	教育文化学部 学校教育課程 4年	第17回秋田県青少年音楽コンクール弦楽器部門において金賞、並びにグランプリを受賞した。

副学長表彰被表彰者一覧〈課外活動関係〉

賞	氏名・団体名	所　属	大会名／種目／成績
課外活動（団体）	女子ハンドボール部		第48回東北学生ハンドボール春季リーグ戦／第3位
			第58回東北学生ハンドボール秋季リーグ戦／第3位
〃	柔道部		平成25年度東北学生柔道優勝大会 女子3人制／優勝
			平成25年度東北学生柔道優勝大会 男子／第3位
			第30回東北国公立大学柔道大会 男子／団体第1位
〃	基礎スキー部		第19回東北学生スキー技術選手権大会 女子団体／優勝
〃	Paradogs		第9回全日本大学フットサル大会東北大会／準優勝
〃	医学部剣道部		第46回北日本医科歯科学生剣道大会 男子団体戦／第１位、男子新人戦／第１位、女子団体戦（Aチーム）／第1位

副学長表彰被表彰者一覧〈課外活動関係〉

賞	氏名・団体名	所　属	大会名／種目／成績
課外活動（団体）	医学部女子卓球部		第51回東北地区医科学生卓球大会 女子団体戦／優勝
			第42回北日本医科歯科学生卓球大会 女子団体戦A／優勝
課外活動（個人）	松本 慎也	教育文化学部 学校教育課程 4年	第48回東北学生ハンドボール春季リーグ戦／ベスト7
〃	阿部 和則	教育文化学部 人間環境課程 3年	第58回東北学生ハンドボール秋季リーグ戦／ベスト7
〃	佐藤 彩花	教育文化学部 学校教育課程 4年	第48回東北学生ハンドボール春季リーグ戦／得点王
			第58回東北学生ハンドボール秋季リーグ戦／得点王
〃	佐藤 眞美子	教育文化学部 学校教育課程 3年	第48回東北学生ハンドボール春季リーグ戦／ベスト7
〃	銭谷 愛穂	教育文化学部 学校教育課程 2年	第58回東北学生ハンドボール秋季リーグ戦／ベスト7
〃	近藤 大地	教育文化学部 学校教育課程 1年	平成25年度東北学生柔道体重別選手権大会 男子100kg級／第3位
			第30回東北国公立大学柔道大会 男子無差別級／第1位
〃	松本 挙弥	教育文化学部 学校教育課程 2年	平成25年度東北学生柔道体重別選手権大会 男子81kg級／準優勝
			第30回東北国公立大学柔道大会 男子81kg級／第1位
〃	菅原 将也	教育文化学部 学校教育課程 1年	第30回東北国公立大学柔道大会 男子73kg級／第1位
〃	三戸 千明	工学資源学部 生命化学科 3年	第30回東北国公立大学柔道大会 女子個人戦／第1位
〃	星　豪志	医学部 保健学科 3年	第28回北部地区国公立大学選手権水泳競技大会 男子100mバタフライ／第1位
			第48回北日本医科学生水泳大会 男子100mバタフライ／第1位
〃	藤田 健人	工学資源学部 情報工学科 3年	第28回北部地区国公立大学選手権水泳競技大会 男子200m平泳ぎ／第1位
〃	米田 拓馬	工学資源学部 土木環境工学科 2年	第28回北部地区国公立大学選手権水泳競技大会 男子200mバタフライ／第1位、男子200m個人メドレー／第1位
〃	藤田 健人	工学資源学部 情報工学科 3年	第28回北部地区国公立大学選手権水泳競技大会 男子400mメドレーリレー／第1位
	星　豪志	医学部 保健学科 3年	
	菅野 拓矢	工学資源学部 地球資源学科 2年	
	米田 拓馬	工学資源学部 土木環境工学科 2年	
〃	遠藤 妃託	教育文化学部 人間環境課程 3年	第19回東北学生スキー技術選手権大会 本戦女子／第3位
〃	安藤 いづみ	医学部 医学科 5年	第25回北日本医科学生陸上競技大会 女子4×100mリレー／第1位
	小黒 希理	医学部 医学科 4年	
	池田　葵	医学部 保健学科 3年	
	小野寺 美晴	医学部 保健学科 2年	
〃	小黒 希理	医学部 医学科 4年	第25回北日本医科学生陸上競技大会 女子100m／第1位
〃	金森 啓太	医学部 医学科 6年	第7回秋季北日本医歯薬学生ソフトテニス大会 男子個人戦・ペア／優勝
	浅井 真成	医学部 医学科 4年	
〃	石崎　萌	医学部 保健学科 2年	第46回北日本医科歯科学生剣道大会 女子個人戦／第1位

外国人留学生数

平成26年5月1日現在

24カ国・地域	学部																				小計				大学院												小計			
	国際資源学部				教育文化学部				医学部				工学資源学部				理工学部								教育学研究科				医学系研究科				工学資源学研究科							
	正規		非正規		正規		非正規		正規		非正規		正規		非正規		正規		非正規		正規		非正規		正規		非正規		正規		非正規		正規		非正規		正規		非正規	
	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費
中　国						7 (2)	1 (1)	23 (21)						15 (4)				5		1		27 (6)	1 (1)	24 (21)	1 (1)									18 (5)			1 (1)	18 (5)		
マレーシア														27 (4)				3				30 (4)												2 (1)				2 (1)		
ベトナム		2 (1)				1 (1)								16 (5)		1						19 (7)		1									1 (1)	5 (1)			1 (1)	5 (1)		
韓　国						2 (2)		11 (7)														2 (2)		11 (7)																
モンゴル		3 (3)		1				5 (4)						1								4 (3)		6 (4)									1 (1)	4 (3)			1 (1)	4 (3)		
インドネシア																																		3 (2)		1		3 (2)		1
ボツワナ																																	2 (2)	2 (1)			2 (2)	2 (1)		
アフガニスタン																																	1				1			
台　湾								5 (5)																5 (5)																
エジプト																													1								1			
ルーマニア							1 (1)	2 (1)															1 (1)	2 (1)																
ケニア								1 (1)																1 (1)	1 (1)												1 (1)			
アメリカ								1																1																
イスラエル							1 (1)																1 (1)																	
タ　イ																																	2 (2)				2 (2)			
フィリピン																																		1 (1)				1 (1)		
パプアニューギニア																																		1	1			1	1	
インド																																								
バングラデシュ														1								1																		
パキスタン				1																1				2																
ペルー																											1 (1)												1 (1)	
ブルキナファソ																											1 (1)												1 (1)	
ロシア							1																1																	
カンボジア							1 (1)																1 (1)																	
計	0	5 (4)	0	2	0	10 (5)	5 (4)	48 (39)	0	0	0	0	0	60 (13)	0	1	0	8	0	2	0	83 (22)	5 (4)	53 (39)	2 (2)	0	2 (2)	0	1	0	0	0	7 (6)	36 (14)	1	1	10 (8)	36 (14)	3 (2)	1

※(　　)内は、女子学生数(内数)　※「国費」とは日本政府(文部科学省)奨学生を示し、大学推薦・大使館推薦・国内採用を含む。
※「非正規」とは、日研生・教研生・特別聴講学生／特別研究学生(交換留学生)・科目等履修生・研究生を指す。
※「私費」には、政府派遣留学生(マレーシア・インドネシア)を含む。

外国人研究員等

〈外国人研究員数〉

平成25年度受入実績

部局名	国・地域	人数
工学資源学研究科	中　国	2
	パプアニューギニア	1
ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー	インド	1

〈非常勤研究員数〉

平成25年度受入実績

部局名	国・地域	人数
工学資源学研究科	インド	2
	ガーナ	1
	中　国	3
	モンゴル	1
ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー	中　国	4
	インド	1

〈外国人客員研究員数〉

平成25年度受入実績

部局名	国・地域	人数
医学系研究科	ベラルーシ	2
工学資源学研究科	ニュージーランド	1

国際交流協定校

〈大学間協定（27カ国地域51大学）〉

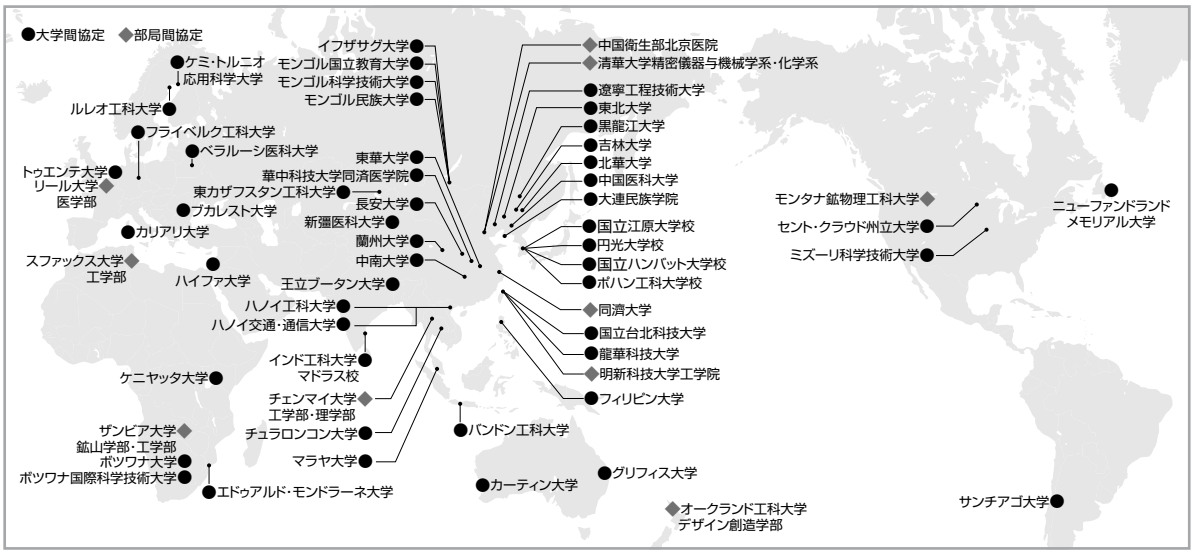
平成26年5月1日現在

国・地域名		大学名	締結年月日
アジア	インド	インド工科大学マドラス校	平成26年 3月21日
	インドネシア	バンドン工科大学	平成24年 7月12日
	韓　国	国立ハンバット大学校	平成13年 6月 8日
		円光大学校	平成19年10月12日
		国立江原大学校	平成20年 3月24日
		ポハン工科大学校	平成21年10月22日
	タ　イ	チュラロンコン大学	平成24年11月28日
	台　湾	龍華科技大学	平成17年 7月15日
		国立台北科技大学	平成17年 7月18日
	中　国	黒龍江大学	昭和63年10月19日
		中国医科大学	平成元年10月 6日
		中南大学	平成16年 8月24日
		遼寧工程技術大学	平成17年 4月20日
		大連民族学院	平成17年 6月27日
		蘭州大学	平成17年 8月 1日
		新疆医科大学	平成18年 2月20日
		吉林大学	平成19年 2月 6日
		東北大学	平成19年 8月 9日
		東華大学	平成21年12月 3日
		華中科技大学同済医学院	平成22年 3月24日
		長安大学	平成22年11月18日
		北華大学	平成24年11月20日
	フィリピン	フィリピン大学デリマン校	平成24年 9月24日
		フィリピン大学マニラ校	平成25年 2月 4日
	ブータン王国	王立ブータン大学	平成24年 6月14日
	ベトナム	ハノイ工科大学	平成20年12月 2日
		ハノイ交通・通信大学	平成20年12月 3日
	マレーシア	マラヤ大学	平成25年11月20日
	モンゴル	モンゴル科学技術大学	平成21年10月22日
		イフザサグ大学	平成22年 7月22日
		モンゴル国立教育大学	平成22年 7月23日
		モンゴル民族大学	平成25年 6月19日
中東	イスラエル	ハイファ大学	平成22年 9月24日
アフリカ	ボツワナ	ボツワナ国際科学技術大学	平成21年10月23日
		ボツワナ大学	平成23年 3月31日
	ケニア	ケニヤッタ大学	平成22年 3月 2日
	モザンビーク	エドゥアルド・モンドラーネ大学	平成26年 1月12日
オセアニア	オーストラリア	グリフィス大学	平成 6年 6月29日
		カーティン大学	平成25年 8月 1日
北米	アメリカ合衆国	セント・クラウド州立大学	平成 8年 7月24日
		ミズーリ科学技術大学	平成23年 3月 7日
	カナダ	ニューファンドランドメモリアル大学	平成25年 6月17日
中南米	チリ	サンチアゴ大学	平成25年11月21日
ヨーロッパ（NIS諸国を含む）	イタリア	カリアリ大学	平成21年12月 9日
	オランダ	トゥエンテ大学	平成19年10月23日
	カザフスタン	東カザフスタン工科大学	平成23年 6月 8日
	スウェーデン	ルレオ工科大学	平成25年 5月 9日
	ドイツ	フライベルク工科大学	平成24年 7月 4日
	フィンランド	ケミ・トルニオ応用科学大学（H25.1.1からラップランド応用科学大学に名称変更）	平成21年10月23日
	ベラルーシ	ベラルーシ医科大学	平成16年 7月26日
	ルーマニア	ブカレスト大学	平成22年 9月28日

〈部局間協定（8カ国地域15学部等）〉

平成26年5月1日現在

国・地域名		大学名	締結年月日
ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー			
アジア	中　国	同濟大学上海市金属効能材料開発応用重点実験室	平成23年 9月 2日
医学系研究科			
アジア	中　国	中国衛生部北京医院	平成 7年11月14日
ヨーロッパ（NIS諸国を含む）	フランス	リール大学医学部	平成23年 4月13日
工学資源学研究科			
アジア	タ　イ	チェンマイ大学工学部	平成11年 7月12日
		チェンマイ大学理学部	平成11年 7月12日
	台　湾	明新科技大学工学院	平成22月 4月12日
	中　国	清華大学精密儀器与機械学系	平成19年 3月 1日
		清華大学化学系	平成20年 1月17日
		同濟大学材料科学与工程学院	平成22年 5月24日
		同濟大学上海市金属効能材料開発応用重点実験室	平成22年 5月24日
アフリカ	ザンビア	ザンビア大学鉱山学部	平成15年 1月20日
		ザンビア大学工学部	平成15年 3月12日
	チュニジア	スファックス大学工学部	平成15年12月18日
オセアニア	ニュージーランド	オークランド工科大学デザイン創造学部	平成24年11月27日（覚書交換）
北米	アメリカ	モンタナ鉱物理工科大学	昭和57年 6月24日



公開講座

〈平成25年度実施〉

講座名	内　　容	開催時期	対象者	参加者数	担当の学部
サイコロジカル･カフェ （全7回）	心理学系教員7名が案内人となり、オムニバス形式で最近の心理学の知見、研究、実験や技法について実演や実習を交えて紹介した。	平成25年6月4日（火） ～7月19日（金）	一般市民	124	教育文化学部
『驚異の島々』 -ロンドンオリンピックに学ぶ英国文化- （全3回）	2012年夏に開催されたロンドンオリンピックは、競技自体の盛り上がりもさることながら、英国を代表する映画監督ダニー・ボイルの演出による開会式で、英国の歴史と文化の豊かさを世界中の人々に印象づけた。オリンピック開会式のすばらしいパフォーマンスを振り返り、そこに描かれた英国像を探った。	平成25年6月14日（金） ～6月28日（金）	一般市民	23	教育文化学部
秋田大学発！ 材料の世界の今昔散歩 （全7回）	エネルギー供給や環境保全が全世界的な問題として取り上げられるようになった今日、人間が安全で快適に生活していくために役立つ新しい機能を持った材料を創製することは材料工学に課せられた重要なテーマである。7名の材料工学研究者が古い時代から今日に至るまでの材料開発への取り組み例について分かりやすく説明した。	平成25年8月2日（金） ～9月27日（金）	一般市民	16	工学資源学研究科
総合自殺予防学 インテンシブコース -地域における自殺対策の科学的エビデンスと展望- （全4回）	「地域における自殺対策の科学的エビデンスと展望」をテーマに、数々の調査・研究から得られたデータをもとに、自殺予防の今後を考えた。	平成25年10月4日（金） ～ 11月1日(金)	保健師、行政担当者、メンタルヘルスサポーター等	20	医学系研究科 公衆衛生学講座
腰痛 -原因別に見た対策と予防- （全4回）	腰痛の原因を知ることから始め、職業性腰痛の対策、運動療法の実際、日常生活動作や心理面から見た腰痛対策の順で講演と実習を行った。	平成25年11月7日（木） ～11月28日(木)	一般市民	31	医学系研究科 保健学専攻
深奥なる雅楽の魅力 （全4回）	雅楽は平安時代から伝承されてきた貴重な音楽文化であり、能や歌舞伎と並ぶ日本を代表する伝統音楽である。奥深い雅楽の魅力を感じていただく機会として開講した。	平成25年11月17日（日）～ 12月15日（日）	一般市民	48	教育文化学部
発声法と歌唱法 -童謡･唱歌、秋田の歌曲を歌う- （全4回）	声の出し方、歌詞の解釈、歌の表現、メンタル面等を課題として取り上げながら、童謡・唱歌、秋田の歌曲について、音楽教育講座の学生も交え地域の人々と交流しながら学習した。	平成26年3月1日（土） ～ 3月30日（日）	一般市民	29	教育文化学部

平成26年度開催予定の公開講座は　秋田大学　公開講座　で検索できます。

国内機関との連携・協力協定

〈大学間協定〉

平成26年5月1日現在

	協定締結日	締結先	協定の形態等	備考
自治体	平成18年 9月25日	秋田県	連携協定	
	平成20年 7月11日	秋田市	〃	
	平成20年10月24日	大館市	〃	
	平成20年11月 5日	小坂町	〃	
	平成20年11月17日	能代市	〃	
	平成21年 2月 7日	横手市	〃	
	平成21年10月 6日	北秋田市	〃	
	平成22年 5月26日	大仙市	〃	
	平成22年12月10日	八峰町	〃	
	平成23年 2月17日	男鹿市	〃	
	平成23年 5月13日	美郷町	〃	
	平成24年 2月17日	潟上市	〃	
	平成24年11月20日	湯沢市	〃	
大　学	平成10年 3月23日	放送大学	単位互換に関する協定	
	平成14年 3月27日	秋田県内3大学	〃	
	平成14年 5月22日	北東北国立3大学	〃	
	平成15年10月 9日	秋田県内高等教育機関	〃	平成22年4月1日からは 12高等教育機関へ拡大
	平成19年12月25日	群馬大学	グローバルCOEプログラム 「生態調節シグナルの統合的研究」	
	平成20年 7月22日	秋田県立大学	連携協力協定	
	平成21年 3月24日	秋田県立大学、国際教養大学	〃	
	平成24年10月 3日	東北公益文科大学	〃	
	平成25年 1月31日	東京大学生産技術研究所	〃	
その他 企業等	平成15年12月24日	秋田県立脳血管研究センター	連携大学院協定	
	平成17年 3月17日	秋田大学生活協同組合	福利厚生事業に関する協定	
	平成18年 7月19日	秋田銀行	連携協力協定	
	平成18年10月24日	北都銀行	〃	
	平成18年12月 6日	商工組合中央金庫秋田支店	産学連携協力推進協定	
	平成19年 3月 6日	株式会社日本政策金融公庫 秋田支店	〃	中小企業金融公庫から 平成20年10月1日に改称
	平成19年 7月24日	DOWAホールディングス(株)	包括的連携協定	
	平成20年 3月21日	宇宙航空研究開発機構	宇宙教育活動にする協力協定	
	平成20年 9月11日	(株)わらび座	連携協力協定	
	平成23年 4月13日	(独)石油天然ガス･金属鉱物 資源機構	資源分野における包括協定	
	平成23年11月29日	美郷町商工会	産学連携に関する覚書	
	平成24年 1月20日	大仙市商工会	〃	

〈部局間協定〉

平成26年5月1日現在

部局名	協定締結日	締結先	協定の形態等
教育文化 学部	平成19年 3月23日	秋田県秋田北高等学校	連携教育協定
	平成21年 3月26日	秋田県教育委員会	秋田県総合教育センター研修員の授業科目の履修に関する協定
	平成24年 8月 1日	秋田県教育委員会、秋田市教育委員会	連携協定
工学資源学 研究科	平成17年12月13日	秋田工業高等専門学校	学部間協定
	平成18年10月 1日	国際資源大学校	〃
	平成18年11月21日	秋田県産業技術総合研究センター	〃
	平成21年 2月 9日	北海道大学工学部	文部科学省選定「資源開発人材育成プログラム」における単位互換協定
	平成24年 7月 2日	東北大学多元物質科学研究所	学部間協定
	平成24年11月 1日	早稲田大学大学院創造理工学研究科	〃
	平成25年 7月12日	東京大学大学院工学系研究科附属 エネルギー･資源フロンティアセンター	〃
	平成25年12月 5日	秋田県、能代市	連携協定

役員数

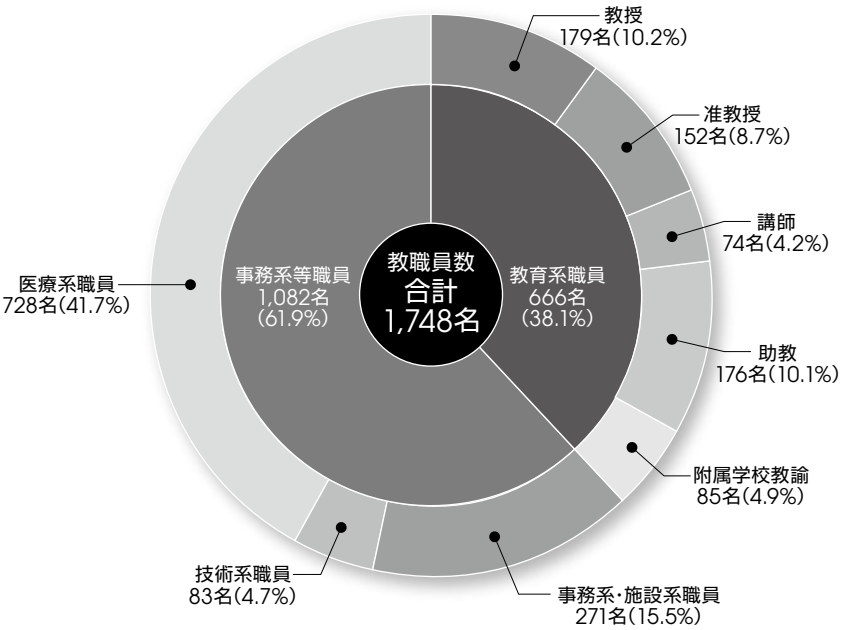
平成26年5月1日現在

区　分	学　長	理　事	監　事	計
学　長	1			1
理　事		5（1）		5（1）
監　事			2（1）	2（1）
計	1	5（1）	2（1）	8（2）

※（　）内の数は非常勤で内数

教職員数

平成26年5月1日現在

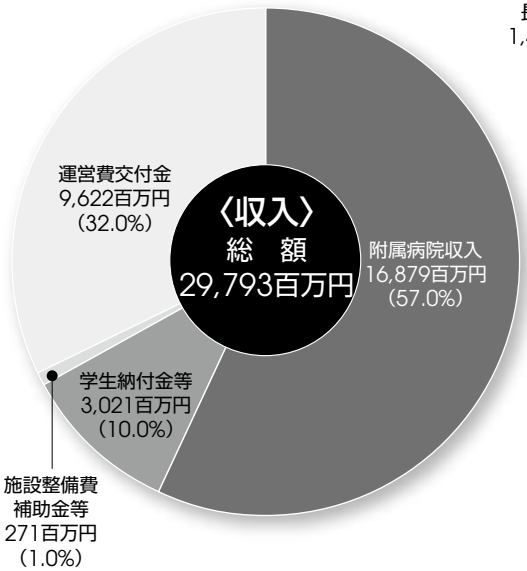


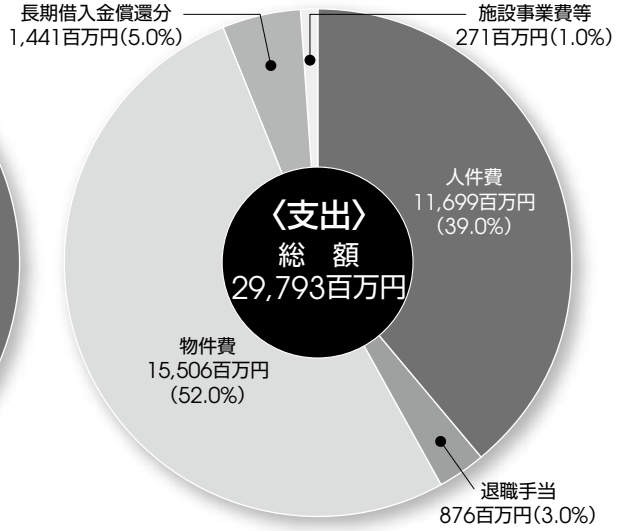
職別・男女別

平成26年5月1日現在

区分	教　授		准教授		講　師		助　教		附属学校教諭		事務系・施設系教員		技術系職員		医療系職員	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
男	160	89.4	138	90.8	62	84.9	120	67.8	44	51.8	167	61.6	68	81.9	132	18.1
女	19	10.6	14	9.2	12	15.1	56	32.2	41	48.2	104	38.4	15	18.1	596	81.9
合計	179		152		74		176		85		271		83		728	

平成26年度予算





※金額は平成26年度予定額であり、上記収入及び支出には、産学連携等研究費及び寄附金に係る経費は含まない。

外部資金受入状況

単位：千円

名　称	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
民間等との共同研究	59	77,934	59	58,659	56	75,131	62	59,464	71	64,480	78	77,127
受託研究	73	276,786	86	312,251	84	371,986	110	273,757	131	344,289	123	279,478
奨学寄附金	830	485,359	794	515,847	801	643,222	769	816,153	705	423,299	738	457,548
寄附講座・部門	2	38,300	3	75,800	5	216,800	6	222,600	6	226,800	6	204,000
合　計	964	878,379	942	962,557	946	1,307,139	947	1,371,974	913	1,058,868	945	1,018,153

※受託研究には治験薬試験・病理組織検査・受託試験を含まない。奨学寄附金には教育研究支援基金を含まない。

平成26年度科学研究費助成事業採択状況

単位：千円　平成26年4月内定時

研究種目	採択件数	交付金額		
		直接経費（研究費）	間接経費	合計
新学術領域研究（研究領域提案型）	8	29,300	8,790	38,090
基盤研究（A）	4	41,600	12,480	54,080
基盤研究（B）	14	42,700	12,810	55,510
基盤研究（C）	148	175,200	52,560	227,760
挑戦的萌芽研究	22	23,700	7,110	30,810
若手研究（A）	2	8,200	2,460	10,660
若手研究（B）	55	64,600	19,380	83,980
研究活動スタート支援	3	3,200	960	4,160
奨励研究	10	5,400	－	5,400
合　計	266	393,900	116,550	510,450

※金額は平成26年度交付予定額

土地・建物

平成26年5月1日現在

区分			建物延床面積(㎡)	土地(㎡)
手形地区	国際資源学部	学　部	4,565	200,277
		附属鉱業博物館	3,864	
	教育文化学部	学　部	21,456	
		附属教育実践研究支援センター	560	
	理工学部	学　部	25,020	
		附属理工学研究センター	2,975	
		附属ものづくり創造工学センター	684	
	中央図書館		4,604	
	総合情報処理センター		1,003	
	ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー		2,878	
	産学連携推進機構 (インキュベーションセンター・百周年記念館含む)		2,151	
	放射性同位元素センター		338	
	国際資源学教育研究センター		1,131	
	保健管理センター		561	
	大学会館(クレール)		3,322	
	本部管理棟他		9,413	
	総合研究棟		4,266	
	体育関係施設		3,827	
	課外活動施設		1,396	
	小　計		94,014	
本道地区	医学部	学　部	34,180	168,219
		附属病院	62,234	
		附属病院シミュレーション教育センター	1,347	
	医学図書館		1,717	
	バイオサイエンス教育・研究センター		7,359	
	環境安全センター		366	
	本道会館(メディココ)		1,268	
	体育関係施設		1,079	
	課外活動施設		396	
	本道寮(女子)		1,317	
	職員宿舎(糠塚)・看護師宿舎		6,878	
	保育所		334	
	小　計		118,475	
保戸野地区	教育文化学部附属幼稚園		1,212	68,807
	教育文化学部附属小学校		7,680	
	教育文化学部附属中学校		7,628	
	教育文化学部附属特別支援学校		3,338	
	小　計		19,858	
その他	手形寮(女子)、西谷地寮(男子) 他		8,958	27,847
	職員宿舎(休下町、城下町 他)		6,074	
	上記以外		1,155	
	小　計		16,187	
合　計			248,534	465,150

各連絡先･所在地一覧

Telephone Number and Address

〈手形地区〉

名　称	電話番号	所在地
総務企画課総務担当　（総合案内）	018-889-2207	〒010-8502 秋田市手形学園町1-1
評価センター	018-889-2937	
附属図書館　中央図書館	018-889-2273	
保健管理センター	018-889-2286	
産学連携推進機構	018-889-2712	
総合情報処理センター	018-889-2499	
ベンチャー・ビジネス･ラボラトリー	018-889-3040	
国際資源学教育研究センター	018-889-2810	
放射性同位元素センター	018-889-3006	
ベンチャーインキュベーションセンター	018-889-2680	
国際交流センター	018-889-2856	
教育推進総合センター	018-889-3191	
教員免許状更新講習推進センター	018-889-3205	
地域創生センター	018-889-2270	
学生支援総合センター	018-889-2265	
男女共同参画推進室	018-889-2260	
インフォメーションセンター	018-889-2931	
国際資源学部　総務担当	018-889-2214	
国際資源学部　附属鉱業博物館	018-889-2461	〒010-8502 秋田市手形字大沢28-2
教育文化学部　総務担当	018-889-2509	〒010-8502 秋田市手形学園町1-1
教育文化学部　附属教育実践研究支援センター	018-889-2700	
理工学部　総務担当	018-889-2305	
理工学部　附属理工学研究センター	018-889-2460	
理工学部　附属ものづくり創造工学センター	018-889-2806	
理工学部　附属地域防災力研究センター	018-889-2305	

手形地区

〈本道地区〉

名　称	電話番号	所在地
医学部　（総合案内）	018-833-1166	〒010-8543 秋田市本道1-1-1
医学部　附属病院　（総合案内）	018-834-1111	
医学部　附属病院 シミュレーション教育センター	018-884-6427	
バイオサイエンス教育･研究センター 分子医学部門	018-884-6191	
バイオサイエンス教育･研究センター 動物実験部門	018-884-6193	
バイオサイエンス教育･研究センター 放射性同位元素部門	018-884-6196	
生体情報研究センター	018-884-6467	
環境安全センター	018-884-6192	
附属図書館　医学図書館	018-884-6052	

本道地区

〈保戸野地区〉

名　称	電話番号	所在地
教育文化学部　附属幼稚園	018-862-2343	〒010-0904 秋田市保戸野原の町14-32
教育文化学部　附属小学校	018-862-2593	〒010-0904 秋田市保戸野原の町13-1
教育文化学部　附属中学校	018-862-3350	〒010-0904 秋田市保戸野原の町7-75
教育文化学部　附属特別支援学校	018-862-8583	

保戸野地区

〈その他施設等〉

名　称	電話番号	所在地
西谷地寮（男子）	018-833-2856	〒010-0851 秋田市手形西谷地5-1
手形寮（女子）	－	〒010-0862 秋田市手形田中5-50
本道寮（女子）	－	〒010-0825 秋田市柳田字糠塚100-3
国際交流会館	－	〒010-0862 秋田市手形田中5-50
留学生会館	－	〒010-0041 秋田市広面字高田4
乳頭ロッジ	0187-46-2110	〒014-1201 仙北市田沢湖生保内字駒ヶ岳2-228
横手分校	0182-38-8304	〒013-0036 横手市駅前町1-21
北秋田分校	0186-62-1111	〒018-3392 北秋田市花園町19-1
男鹿なまはげ分校	0185-24-9126	〒010-0595 男鹿市船川港船川字泉台66-1
東京サテライト	03-5440-9104	〒108-0023 東京都港区芝浦3-3-6 東京工業大学キャンパス･イノベーションセンター 606号室
放送大学秋田学習センター	018-831-1997	〒010-8502 秋田市手形学園町1-1

手形地区施設配置図

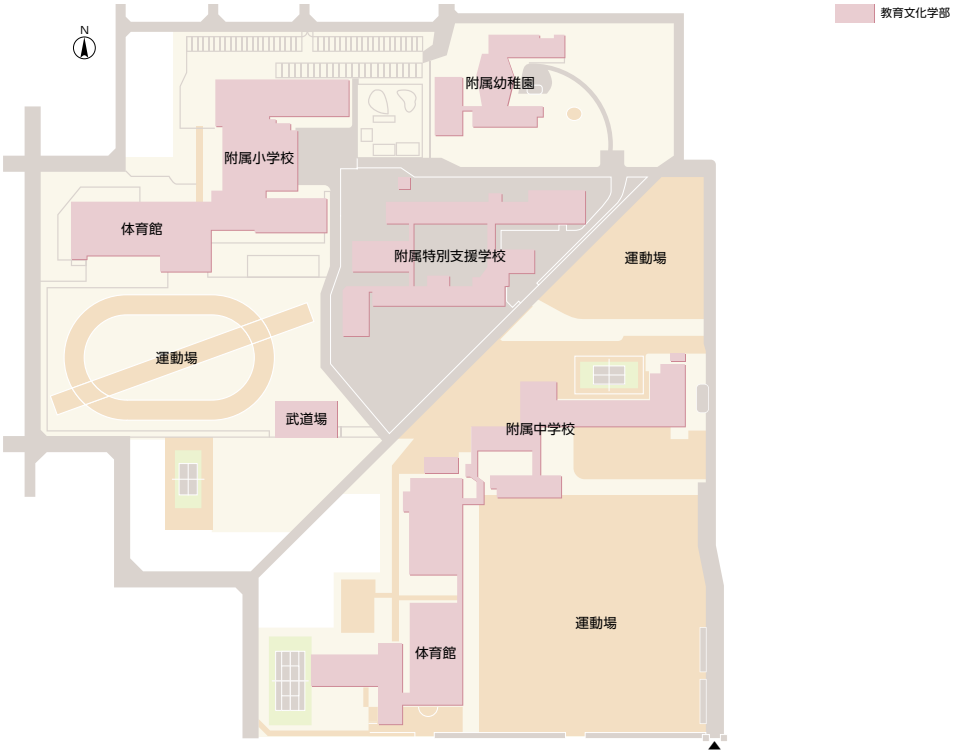
Tegata Campus Map

本道地区施設配置図

Hondo Campus Map

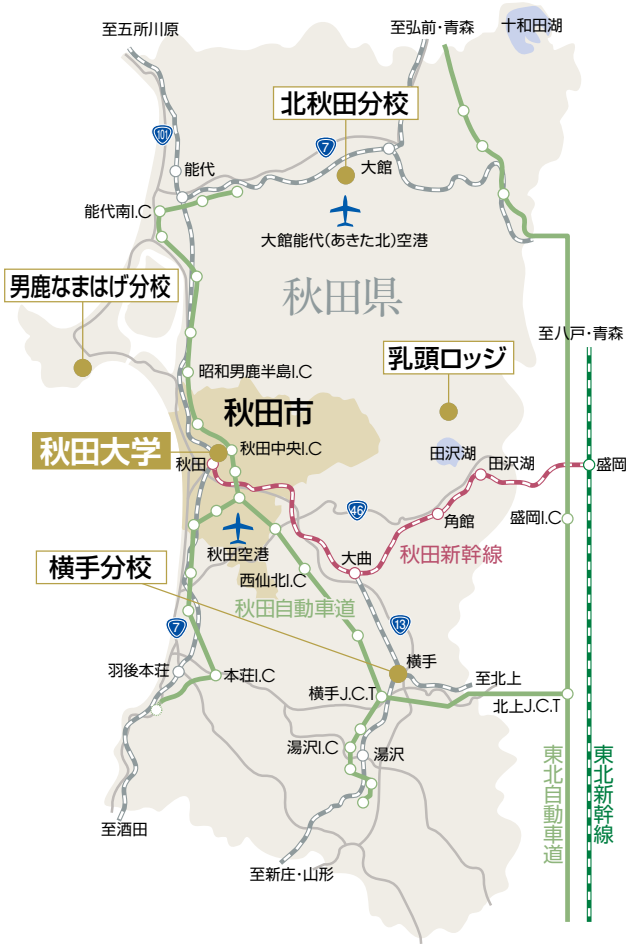
保戸野地区施設配置図

Hodono Campus Map



アクセス

Access



〈秋田まで〉

平成26年4月現在

東京から	羽田空港―秋田空港(約1時間5分)
	秋田新幹線「こまち」 東京駅―秋田駅(約4時間)
名古屋から	中部国際空港―秋田空港(約1時間20分)
大阪から	大阪国際(伊丹)空港―秋田空港(約1時間30分)
札幌から	新千歳空港―秋田空港(約1時間5分)

秋田空港～秋田駅間リムジンバス	秋田空港―秋田駅西口(約35分)
	秋田空港―秋田駅東口(約30分) ※1日1便のみ

〈秋田駅から秋田大学まで〉

平成26年4月現在

行き先	バス路線(秋田中央交通)	秋田駅前バスのりば	下車バス停(所要時間)
手形地区	手形山大学病院線	西口⑫番	秋田大学前(約6分)
	●秋田駅東口より徒歩約15分		
本道地区	太　平　線	西口⑪番	大学病院前(約15分)
	赤　沼　線		
	松崎団地線		
	手形山大学病院線	西口⑫番	
	駅　東　線	東口①番	
	赤　沼　線	東口②番	
保戸野地区	神田旭野線	西口⑩番	原の町(約10分)
	神田土崎線		
	添　川　線		

学　年　暦

●学年

前　期……　4月1日～9月30日

後　期……10月1日～3月31日

●式典

入学式……4月　5日

卒業式……3月22日

●休業（平成26年～平成27年）

夏季休業……　8月　9日～ 9月28日

冬季休業……12月26日～1月　8日

春季休業……　2月19日～4月　3日

ロゴマーク

Akita University

秋田大学のロゴマークには、次の四つの意味が表現として込められています。

1 本学名称の英語表記“Akita University”の頭文字の小文字“a”を表現している。

2 本学が秋田県に存在し、また秋田県に根ざした大学となることを目指していることから、秋田県の「海岸線」のイメージを表現している。

3 本学が四つの学部から構成される大学であることのイメージを表現している。

4 本学が「世界」と「地域」の両面へ貢献する大学であることのイメージを表現している。

Akita University

秋田大学 概要 平成26年度

［編集発行］
秋田大学 広報課
秋田市手形学園町1番1号 〒010-8502
TEL018-889-3019　FAX018-889-2219
E-mail kouhou@jimu.akita-u.ac.jp
http://www.akita-u.ac.jp